

三豊市立学校適正規模・適正配置検討委員会

第4回 会議資料

三豊市役所危機管理センター3階災害対策本部室
令和3年10月19日(火)午後3時00分から



会議資料

【目 次】

議題 4-1	前回視察について（質問の回答）	1
議題 4-2	適正規模適正配置について	
	適正規模の基準を適用した場合の学校数推計	4
	将来推計からの児童・学級数（再編小学校別児童学級数）	5
	再編整備計画に基づく小学校別規模分布図	6
	将来推計からの生徒・学級数（再編中学校（仮）別生徒学級数）	7
	中学校別学校規模分布図（3校（仮）の場合）	8
	将来推計からの児童・生徒数と学級数（地域別学校数による集計）	9
	小学校位置図（4K範囲図）	13
	中学校位置図（6K範囲図）	14
参考資料	令和3年度香川型指導体制について	17
	小中一貫教育校について	18
	学級編制・教職員定数の算定について	30
	公立小中学校の学級規模の状況について	35
	学級規模の学力への影響について	37
	学級規模の基準（公立）〔国際比較〕	39
	一学級当たり児童生徒数〔国際比較〕	40
	教員一人当たり児童生徒数〔国際比較〕	41
	学級規模別学級数の割合	42
	学年別収容人員別学級数の割合〔単式〕	43

番号	質問者	高瀬中学校への質問事項	学校長からの回答
1	A	少人数の学校はあまり競争になることがないのですが、適正規模校ではいい意味での競争や切磋琢磨はみられるでしょうか？	生徒個々の競争と、町内の5小学校で出身小学校別の競争も図っています。 上級生が下級生に指導する、縦割り活動も盛んで、高瀬中の伝統となっています。
2	B	タブレットの使用状況。どのような授業に使われどのような使われ方をしているのか。またそのデータの管理方法とデータの分析結果等あらゆる情報が欲しい。 余剰教室の数はどれほどあるか？ 校外のクラブ活動参加の実態。 豊中との合併による更なる大規模化については検討の余地はあるか？	タブレットの使用状況は、校内での活用のみで、家庭への持ち帰りはまだですが、AIドリルが主で、カメラ機能を使い技能教科の実習等にも使っています。 校外クラブは、水泳、新体操、サッカーなどに所属している生徒がいます。 <余剰教室・豊中との合併についての言及なし> ・施設見学で、現状の施設はH17年竣工 1学年3～4クラスの構成であるとのこと。
3	C	デジタル端末を導入して、生徒達は、観る、聴くことに集中してノートに書くことはありますか。	電子黒板の活用で、デジタルコンテンツなど、授業の幅は広がりましたが、それらを見て、傾聴してノートに書くといった従来の学習も集中して行えています。
4	D	町内の5つの小学校との連携、接続や、地域性を考慮したPTA活動などの特色を教えてください。	教職員の連携は、生徒情報交換や授業研究、人権学習などを盛んに行っています。 PTA行事の連携は、主として資源回収です。
6	F	全校生徒数は何名ですか。	1年生123名、2年生122名、3年生90名の335名です。(9月15日現在)

番号	質問者	和光中学校への質問事項	学校長からの回答
1	A	少人数化で起きている子どもたちや保護者が困っていることはありませんか？子どもや保護者からされた相談例やその相談への対処について具体例があればお聞きしたいです。	部活動の問題とクラス替えができないことに困っていると言えます。 少人数では生徒の競争心が高まらないのでは、とよく言われますが、実感として、それはあまり関係ないと思っています。
2	B	タブレットの使用状況。どのような授業に使われどのような使われ方をしているのか。またそのデータの管理方法とデータの分析結果等あらゆる情報が欲しい。 校外へのクラブ活動への参加が、部活動の衰退に繋がっている実態があるか？ 山本の生徒が全て和光中に入学することになった場合、ハード面で受け入れ可能か？	タブレットは、9教科中6教科で使用実績があり、AIドリルは、夏休みに、数理英の3科目で家庭学習として使用し、その他ではGoogleClassroomのペーパーレスな授業、翻訳アプリを使っての英作文、各教科でデジタル教科書も活用しています。まだまだ発展途上であり、管理が必要なデータはありません。 校外クラブに入っている生徒は、そちらを優先してもらっていますが、それらの生徒は学校の部活の試合には参加しないなど、部活運営を難しくしている部分はあります。 はっきりとした推計は分かりませんが、教室数のキャパシティから、財田小・山本小を合わせて、1学年2クラス以下となる10年後には可能でないかと思います。
3	C	生徒が好きなクラブに入れない生徒のケアはどのようにしていますか。	バレーボール部は、競技人数に足りていませんが、今年度から特例で再開させました。人数確保のため、郊外クラブに入っている生徒も、中学校の部活に入部してもらうようお願いをしています。
4	D	生徒数の減少により、管理職として一番感じている（今までと違って）生徒指導、学力指導の問題点はどのようなことか。	生徒指導は、少ない人数の方が、生徒に目が行き届き、やりやすいです。 学習指導では、生徒数の減少で、教員配置数が減らされていることが、最大の課題です。1教科1教員以下で他校との兼務、校内で教科研究ができない、指導力のある教員が配置されにくいなどの影響が出ています。
5	E	部活動等で苦勞していることや工夫していることがあれば教えてください	団体競技は、チームとして大会出場ができないので他校と合同チームを組んでいます。 将来的には市単位で、部活動編成することを考えてはどうかと思っています。
6	F	全校生徒は何名ですか クラブ活動についてクラブの数はそしてそれぞれ活発に行かれていますか。 さらに対外試合等々は他の学校と連携して参加しているのですか。	1年生37名、2年生24名、3年生32名の93名です。（9月15日現在） クラブ数は、現在7クラブです。（野球、陸上、バスケット、卓球、剣道、吹奏楽、バレー） 人数が足りない部は、他校と合同チームで出場しています。

番号	質問者	財田小学校への質問事項	学校長から回答
1	A	合併するにあたって想定していた合併後に起こりそうな問題がありましたか？事前にどのような準備をされていたのか知りたいです。また想定外に起こった合併後の問題がありましたか？そちらへの対処や解決プロセスをお聞きしたいです。	統合前は、2校のスムーズな融合と隣接するB&Gとの連携が想定課題でした。話し合いや行事の共催をして、各方面から協力もいただき、円滑な統合が出来ました。児童たちは、すでに幼稚園が一つなので、わだかまりなく仲良くなりました。 統合後の課題は、登下校とPTA組織です。バス通学は運行管理の調整、徒歩通学は旧2校の異なる登校方式（手段と自由）に対処しているところです。PTA組織は、統合後も児童数減少が進んでいるので、組織のコンパクト化を図っています。
2	B	タブレットの使用状況。どのような授業に使われどのような使われ方をしているのか。またそのデータの管理方法とデータの分析結果等あらゆる情報が欲しい。 合併後したことについて、児童や保護者からの感想や今後の改善点をお聞きしたい。	タブレットは、3年生から6年生は毎日、使用しています。 Aドリル、協働学習アプリ、カメラ機能、デジタル教科書を活用し、家庭への持ち帰りに備え、GoogleClassroomの準備もできています。データ管理は、これからです。 統合後の感想ですが、新しくなった学校や、たくさんの友達と一緒に学ぶことを喜んでくれていると感じています。
3	C	スクールバスで通う生徒さんは学校までの時間はどれくらいでしょうか。	一番遠いところから乗る生徒は、学校まで30分ほどかかります。
4	D	通学範囲が広いので、安全面など心配なことはあるか。	安全面では、野生動物（サル）の発生が度々起こり、注意するよう指導しています。
5	E	統合後の保護者や地域の人々の声があれば聞かせてください。校区が広がったことで、よかった点や困っている点があれば教えてください。	学校が新しくなり、たくさんの友達との交流・切磋琢磨を喜ぶ声が多いです。 校区が広がったことで、児童の登下校に配慮が必要になりましたが、財田町が一つになって、町全体の子どもたちのため、地域が学校を支えてくれていることに感謝しています。

1. 児童生徒数の将来推計(5年ごと)

	R3	R8	R13	R18	R23	R28
児童数	3,050	2,532	2,201	2,116	1,943	1,759
生徒数	1,491	1,553	1,248	1,156	1,049	966
	R5	R10	R15	R20	R25	R30
児童数	2,930	2,321	2,243	2,044	1,872	1,695
生徒数	1,540	1,457	1,062	1,105	1,012	925

R5からの5年ごとで算出

※第1回資料より

2. 適正規模の学級数を児童・生徒数に置きかえた場合の人数(35人学級)

	県基準(9学級)	最小(12学級)		最大(18学級)	
		2学級×6学年	3学級×6学年	3学級×3学年	4学級×3学年
小学校 (12～18学級)		36人×6	70人×6	71人×6	105人×6
		216	420	426	630
中学校 (9～18学級)	3学級×3学年	71人×3	105人×3	106人×3	140人×3
		213	315	318	420
			4学級×3学年	6学級×3学年	
			106人×3	176人×3	210人×3
			318	528	630

★35人学級編制の場合の児童・生徒数と学級数

1学年の人数	1～35	36～70	71～105	106～140	141～175	176～210
学級数	1	2	3	4	5	6

区分	最小～最大	最小数・最大数						
		R5 2023	R10 2028	R15 2033	R20 2038	R25 2043	R30 2048	
小学校	12学級 18学級	216人 630人	13 5	10 4	10 4	9 4	8 3	7 3
中学校 (山本町舎 む)	9学級	213人	7	6	4	5	4	4
	12学級	318人	4	4	3	3	3	2
18学級	630人	3	3	2	2	2	2	

2. 適正規模の学級数を児童・生徒数に置きかえた場合の人数(30人学級)

	県基準(9学級)	最小(12学級)		最大(18学級)	
		2学級×6学年	3学級×6学年	3学級×3学年	4学級×3学年
小学校 (12～18学級)		31人×6	60人×6	61人×6	90人×6
		186	360	366	540
中学校 (9～18学級)	3学級×3学年	61人×3	90人×3	91人×3	120人×3
		183	270	273	360
			4学級×3学年	6学級×3学年	
			91人×3	151人×3	180人×3
			273	453	540

★30人学級編制となった場合の児童・生徒数と学級数

1学年の人数	1～30	31～60	61～90	91～120	121～150	151～180
学級数	1	2	3	4	5	6

区分	最小～最大	最小数・最大数						
		R5 2023	R10 2028	R15 2033	R20 2038	R25 2043	R30 2048	
小学校	12学級 18学級	186人 540人	15 6	12 5	12 5	10 4	10 4	9 4
中学校 (山本町舎 む)	9学級	183人	8	7	5	6	5	5
	12学級	273人	5	5	3	4	3	3
18学級	540人	3	3	2	3	2	2	

★30人学級編制の場合の児童・生徒数の将来推計から見る学校数(最小数・最大数)

12学級とした場合の学校数
18学級とした場合の学校数
9学級とした場合の学校数
12学級とした場合の学校数
18学級とした場合の学校数

将来推計からの児童・学級数(再編整備計画に基づく小学校別児童学級数)

地域	R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30
高瀬	高瀬1	347	320	305	309	291	281	267	257	233
	学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12
	高瀬2	311	278	260	271	256	247	235	227	204
	学級数	12	11	11	12	12	12	12	9	7
	児童計	658	598	565	580	547	528	502	484	437
	学級計	24	23	23	24	24	24	24	21	19
	山本	235	205	182	199	189	183	174	167	150
	学級数	9	7	6	6	6	6	6	6	6
	三野	418	387	374	369	349	337	319	307	279
	学級数	18	18	18	18	18	18	18	18	18
豊中	549	513	495	492	463	447	426	411	371	
学級数	19	18	18	18	18	18	16	14	12	
詫間	428	378	360	370	348	337	320	308	289	
学級数	19	18	18	18	18	18	18	15	13	
仁尾	148	141	136	136	128	124	118	114	108	
学級数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
財田	113	99	89	97	92	88	84	81	76	
学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
児童合計	2,549	2,321	2,201	2,243	2,116	2,044	1,943	1,872	1,759	
学級合計	104	99	98	99	99	99	97	95	87	

将来推計からの児童・学級数(現小学校別)※豊中は核で算出

地域	R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30
高瀬	上高瀬	205	193	197	189	178	172	164	158	143
	学級数	8	7	7	6	6	6	6	6	6
	勝間	170	156	147	151	142	137	131	126	113
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	比地	142	127	108	120	113	109	103	99	90
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	二ノ宮	60	53	47	50	47	45	42	42	37
	学級数	5	5	5	5	4	4	4	4	4
	麻	81	69	66	70	67	65	62	59	54
	学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6
児童計	658	598	565	580	547	528	502	484	437	
学級計	31	30	30	29	28	28	28	28	28	
山本	235	205	182	199	189	183	174	167	150	
学級数	9	7	6	6	6	6	6	6	6	
児童計	235	205	182	199	189	183	174	167	150	
学級計	9	7	6	6	6	6	6	6	6	
三野	132	124	121	115	109	105	99	95	90	
学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
下高瀬	157	152	147	145	137	133	126	121	114	
学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
吉津	129	111	106	109	103	99	94	91	86	
学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
児童計	418	387	374	369	349	337	319	307	290	
学級計	18	18	18	18	18	18	18	18	18	
豊中(仮)	549	513	495	492	463	447	426	411	371	
学級数	19	18	18	18	18	18	16	14	12	
桑山	102	103	101	94	88	86	82	79	74	
学級数	106	92	90	89	84	81	77	75	70	
比地大	104	98	96	97	92	88	84	81	76	
学級数	80	57	52	61	57	55	52	50	47	
上高野	157	163	156	151	142	137	131	126	118	
学級数	549	513	495	492	463	447	426	411	371	
児童計	19	18	18	18	18	18	16	14	12	
学級計	105	104	103	100	94	92	87	83	78	
詫間	428	378	360	370	348	337	320	308	289	
学級数	13	12	12	12	12	12	12	12	9	
小計	19	18	18	18	18	18	18	18	15	
仁尾	138	136	131	130	122	118	112	108	102	
学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
曾保	10	5	5	6	6	6	6	6	6	
学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	
小計	148	141	136	136	128	124	118	114	108	
小計	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
財田	113	99	89	97	92	88	84	81	76	
学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
児童計	113	99	89	97	92	88	84	81	76	
学級計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
児童合計	2,549	2,321	2,201	2,243	2,116	2,044	1,943	1,872	1,759	
学級合計	111	106	105	104	103	103	101	99	94	

5. 再編整備計画に基づく小学校別学校規模分布図

R15 現小学校 (豊中は統合後)		普通 学級数	学校規模 (文部省基準)	普通 学級数	R15 小学校 (再編整備計画に基づく)	
児童数					児童数	
		1	過小	1		
		2		2		
	曾保 6	3		3		
		4		4		
	二ノ宮 50	5		5		
吉津 109	松崎 100	財田 97	麻 70	6	財田 97	山本 199
下高瀬 145	仁尾 130	比地 120	大見 115	6		
	山本 205	上高瀬 189	勝間 151	7		
		8	小	8		
		9		9	仁尾 136	
		10		10		
		11		11		
		12		12	高瀬2 271	高瀬1 309
		13	適正	13		
		14		14		
		15		15		
		16		16		
		17		17		
	豊中 492	18	18	三野 369	詫間 370	豊中 492
		19	大	19		
		30		30		
		31	過大	31		

※学級数は公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律に基づいた学級編制より

児童数は第1回資料より

高瀬1は上高瀬、比地の合計

高瀬2は勝間、二ノ宮、麻の合計

将来推計からの地区中学校別生徒数・学級数
高瀬1(上高瀬・比地)高瀬2(勝間・二ノ宮・麻)

地域		R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30
高瀬	高瀬	376	364	326	274	299	286	271	262	249	240
	学級数	12	12	10	9	9	9	9	9	9	9
	高瀬1	197	188	171	153	159	153	144	139	133	127
山本	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116	113
	三中(山本)	145	138	123	82	102	98	94	91	86	83
三野	学級数	6	6	4	3	3	3	3	3	3	3
	三野津	245	225	199	195	190	182	173	167	158	152
豊中	学級数	8	7	8	7	6	6	6	6	6	6
	豊中	290	294	265	236	254	242	229	221	213	202
詫間	学級数	10	10	9	9	9	9	9	9	8	6
	詫間	311	272	203	168	191	182	173	166	159	152
仁尾	学級数	10	9	7	6	6	6	6	6	6	6
	仁尾	122	93	73	62	70	67	64	61	59	56
財田	学級数	6	4	3	3	3	3	3	3	3	3
	和光	72	71	59	45	50	48	45	44	42	40
生徒計	学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
	生徒計	1,561	1,457	1,248	1,062	1,156	1,105	1,049	1,012	966	925
学級計		55	51	44	40	39	39	39	39	38	36

35人学級

★将来推計の生徒数から見た三豊市内中学校数編成3校(仮)※再編整備計画からの小学校区単位

地域		R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30
詫間	詫間	311	272	203	168	191	182	173	166	159	152
	仁尾	122	93	73	62	70	67	64	61	59	56
	三野	245	225	199	195	190	182	173	167	158	152
	生徒数	678	590	475	425	451	431	410	394	376	360
	学級数	21	19	15	14	15	15	12	12	12	12
高瀬1	高瀬1	197	188	171	153	159	153	144	139	133	127
	豊中	290	294	265	236	254	242	229	221	213	202
	生徒数	487	482	436	389	413	395	373	360	346	329
	学級数	15	15	14	12	13	12	12	12	12	12
	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116	113
山本	高瀬2	145	138	123	82	102	98	94	91	86	83
	和光	72	71	59	45	50	48	45	44	42	40
	生徒数	396	385	337	248	292	279	266	258	244	236
	学級数	12	12	10	8	9	9	9	9	9	9
	生徒計	1,561	1,457	1,248	1,062	1,156	1,105	1,049	1,012	966	925
学級計		48	46	39	34	37	36	33	33	33	33
高瀬2 (山本除外)	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116	113
	財田	72	71	59	45	50	48	45	44	42	40
	生徒数	251	247	214	166	190	181	172	167	158	153
	学級数	9	9	7	6	6	6	6	6	6	6

30人学級の場合

★将来推計の生徒数から見た三豊市内中学校数編成3校(仮)※再編整備計画からの小学校区単位

地域		R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30
詫間	詫間	311	272	203	168	191	182	173	166	159	152
	仁尾	122	93	73	62	70	67	64	61	59	56
	三野	245	225	199	195	190	182	173	167	158	152
	生徒数	678	590	475	425	451	431	410	394	376	360
	学級数	24	21	17	15	16	15	15	15	15	14
高瀬1	高瀬1	197	188	171	153	159	153	144	139	133	127
	豊中	290	294	265	236	254	242	229	221	213	202
	生徒数	487	482	436	389	413	395	373	360	346	329
	学級数	18	18	16	15	15	15	15	13	12	12
	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116	113
山本	高瀬2	145	138	123	82	102	98	94	91	86	83
	和光	72	71	59	45	50	48	45	44	42	40
	生徒数	396	385	337	248	292	279	266	258	244	236
	学級数	15	15	13	10	12	12	9	9	9	9
	生徒計	1,561	1,457	1,248	1,062	1,156	1,105	1,049	1,012	966	925
学級計		57	54	46	40	43	42	39	37	36	35
高瀬2 (山本除外)	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116	113
	財田	72	71	59	45	50	48	45	44	42	40
	生徒数	251	247	214	166	190	181	172	167	158	153
	学級数	9	9	7	7	8	8	6	6	6	6

将来推計からの地区中学校別生徒数・学級数

35人学級

★将来推計の生徒数から見た三豊市内中学校数編成2校(仮)※再編整備計画からの小学校区単位

地域		R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30	
詫間	詫間	311	272	203	168	191	182	173	166	159	152	
	仁尾	122	93	73	62	70	67	64	61	59	56	
	三野	245	225	199	195	190	182	173	167	158	152	
	高瀬1	197	188	171	153	159	153	144	139	133	127	
	生徒数	875	778	646	578	610	584	554	533	509	487	
高瀬2	学級数	27	24	20	17	18	18	18	18	15	15	
	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116	113	
	豊中	290	294	265	236	254	242	229	221	213	202	
	三中(山本)	145	138	123	82	102	98	94	91	86	83	
	和光	72	71	59	45	50	48	45	44	42	40	
山本	生徒数	686	679	602	484	546	521	495	479	457	438	
	学級数	21	21	19	16	18	16	15	15	15	15	
	生徒計	1,561	1,457	1,248	1,062	1,156	1,105	1,049	1,012	966	925	
	学級計		48	45	39	33	36	34	33	33	30	30
	高瀬2 (山本除外)	高瀬2	179	176	155	121	133	133	123	123	113	113
豊中		290	294	265	236	242	242	221	221	202	202	
和光		72	71	59	45	48	48	44	44	40	40	
生徒数		541	541	479	402	423	423	388	388	355	355	
学級数		17	17	15	13	14	14	12	12	12	12	

30人学級

★将来推計の生徒数から見た三豊市内中学校数編成2校(仮)※再編整備計画からの小学校区単位

地域		R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30	
詫間	詫間	311	272	168	168	182	182	166	166	152	152	
	仁尾	122	93	62	62	67	67	61	61	56	56	
	三野	245	225	195	195	182	182	167	167	152	152	
	高瀬1	197	188	153	153	153	153	139	139	127	127	
	生徒数	875	778	646	578	610	584	554	533	509	487	
高瀬2	学級数	30	27	23	20	21	21	21	19	18	18	
	高瀬2	179	176	121	121	133	133	123	123	113	113	
	豊中	290	294	236	236	242	242	221	221	202	202	
	三中(山本)	145	138	82	82	98	98	91	91	83	83	
	和光	72	71	45	45	48	48	44	44	40	40	
山本	生徒数	686	679	602	484	546	521	495	479	457	438	
	学級数	24	24	21	18	20	18	18	18	17	15	
	生徒計	1,561	1,457	1,248	1,062	1,156	1,105	1,049	1,012	966	925	
	学級計		54	51	44	38	41	39	39	37	35	33
	高瀬2 (山本除外)	高瀬2	179	176	121	121	133	133	123	123	113	113
豊中		290	294	236	236	242	242	221	221	202	202	
財田		72	71	45	45	48	48	44	44	40	40	
生徒数		541	541	479	402	423	423	388	388	355	355	
学級数		19	19	17	15	15	15	15	15	13	13	

6. 中学校別学校規模分布図 (市内2校の場合)

R15 現中学校			普通 学級数	学校規模 (文部省基準)	普通 学級数	R15 中学校 (2校の場合)
生徒数						生徒数
			1	過小	1	
			2		2	
三中	仁尾	和光	3		3	
82	62	45	4		4	
			5		5	
			6	小	6	
		詫間	7		7	
		168	8		8	
		三野津	9		9	
		195	10		10	
			11		11	
			12	適正	12	
			13		13	
			14		14	
			15		15	
			16		16	高瀬2、豊中、三中(山本)、和光 484
			17	17	詫間、仁尾、三野津、高瀬1 578	
			18		18	
			19	大	19	
			30		30	
			31	過大	31	
			30		30	

※学級数は公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律に基づいた学級編制より
 生徒数は第1回資料より
 三中は山本地区の生徒数のみで算出
 高瀬1は上高瀬、比地の合計
 高瀬2は勝間、二ノ宮、麻の合計

将来推計からの児童・生徒数と学級数(中学校7校の場合の小中地域別集計)

国の適正規模数からの小中一貫教育校の検討

大規模校 小規模校 適正規模

三中は山本のみで算出

適正規模基準はR15年時

小学校、高瀬1(上高瀬・比地) 高瀬2(詫間・二ノ宮・麻) 学級計は高瀬1と2を統合した場合の数字

地域	区分		R 8	R 1 0	R 1 3	R 1 5	R 1 8	R 2 0	R 2 3	R 2 5	R 2 8	R 3 0	
高瀬	①中学校	高瀬	376	364	326	274	299	286	271	262	249	240	
		学級数	12	12	10	9	9	9	9	9	9	9	←統合した場合の学級数
	①小学校	高瀬1	347	320	305	309	291	281	267	257	241	233	
		学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	
		高瀬2	311	278	260	271	256	247	235	227	213	204	
		学級数	12	11	11	12	12	12	12	12	9	7	
		児童計	658	598	565	580	547	528	502	484	454	437	
学級計	21	19	18	18	18	18	18	18	18	18	17	←統合した場合の学級数	
山本	②中学校	三中(山本)	145	138	123	82	102	98	94	91	86	83	
		学級数	6	6	4	3	3	3	3	3	3	3	←統合した場合の学級数
	②小学校	山本	235	205	182	199	189	183	174	167	157	150	
		学級数	9	7	6	6	6	6	6	6	6	6	
		児童計	235	205	182	199	189	183	174	167	157	150	
学級計	9	7	6	6	6	6	6	6	6	6	←統合した場合の学級数		
三野	③中学校	三野津	245	225	199	195	190	182	173	167	158	152	
		学級数	8	7	8	7	6	6	6	6	6	6	←統合した場合の学級数
	③小学校	三野	418	387	374	369	349	337	319	307	290	279	
		学級数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	
		児童計	418	387	374	369	349	337	319	307	290	279	
学級計	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	←統合した場合の学級数	
豊中	④中学校	豊中	290	294	265	236	254	242	229	221	213	202	
		学級数	10	10	9	9	9	9	9	9	8	6	←統合した場合の学級数
	④小学校	豊中	549	513	495	492	463	447	426	411	385	371	
		学級数	19	18	18	18	18	18	16	14	12	12	
		児童計	549	513	495	492	463	447	426	411	385	371	
学級計	19	18	18	18	18	18	16	14	12	12	←統合した場合の学級数		
詫間	⑤中学校	詫間	311	272	203	168	191	182	173	166	159	152	
		学級数	10	9	7	6	6	6	6	6	6	6	←統合した場合の学級数
	⑤小学校	詫間	428	378	360	370	348	337	320	308	289	279	
		学級数	19	18	18	18	18	18	18	18	15	13	
		児童計	428	378	360	370	348	337	320	308	289	279	
学級計	19	18	18	18	18	18	18	18	18	15	13	←統合した場合の学級数	
仁尾	⑥中学校	仁尾	122	93	73	62	70	67	64	61	59	56	
		学級数	6	4	3	3	3	3	3	3	3	3	←統合した場合の学級数
	⑥小学校	仁尾	148	141	136	136	128	124	118	114	108	105	
		学級数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	
		児童計	148	141	136	136	128	124	118	114	108	105	
学級計	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9	←統合した場合の学級数		
財田	⑦中学校	和光	72	71	59	45	50	48	45	44	42	40	
		学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	←統合した場合の学級数
	⑦小学校	財田	113	99	89	97	92	88	84	81	76	74	
		学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	
		児童計	113	99	89	97	92	88	84	81	76	74	
学級計	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6	←統合した場合の学級数		
計	中学校	生徒合計	1,561	1,457	1,248	1,062	1,156	1,105	1,049	1,012	966	925	
		学級数合計	55	51	44	40	39	39	39	39	38	36	
	小学校	児童数合計	2,549	2,321	2,201	2,243	2,116	2,044	1,943	1,872	1,759	1,695	
		学級数合計	101	95	93	93	93	93	91	89	84	81	

将来推計からの児童・生徒数と学級数(中学校4校の場合の小中地域別集計)

国の適正規模数からの小中一貫教育校の検討

大規模校 小規模校 適正規模

三中は山本のみで算出

適正規模基準はR15年時

高瀬1(上高瀬・比地) 高瀬2(勝間・二ノ宮・麻) 高瀬1と2を分離統合

地域	区分		R 8	R 10	R 13	R 15	R 18	R 20	R 23	R 25	R 28	R 30
高瀬1 三野	①中学校	高瀬1	197	188	171	153	159	153	144	139	133	127
		学級数	9	8	6	6	6	6	6	6	6	6
		三野津	245	225	199	195	190	182	173	167	158	152
		学級数	8	7	8	7	6	6	6	6	6	6
		生徒数	442	413	370	348	349	335	317	306	291	279
	①小学校	高瀬1	347	320	305	309	291	281	267	257	241	233
		学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
		三野	418	387	374	369	349	337	319	307	290	279
		学級数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
		児童計	765	707	679	678	640	618	586	564	531	512
	学級計	25	23	23	24	22	20	18	18	18	18	
豊中	②中学校	豊中	290	294	265	236	254	242	229	221	213	202
		学級数	10	10	9	9	9	9	9	9	8	6
	②小学校	豊中	549	513	495	492	463	447	426	411	385	371
		学級数	19	18	18	18	18	18	16	14	12	12
		児童計	549	513	495	492	463	447	426	411	385	371
	学級計	19	18	18	18	18	18	16	14	12	12	
詫間 仁尾	③中学校	詫間	311	272	203	168	191	182	173	166	159	152
		学級数	10	9	7	6	6	6	6	6	6	6
		仁尾	122	93	73	62	70	67	64	61	59	56
		学級数	6	4	3	3	3	3	3	3	3	3
		生徒数	433	365	276	230	261	249	237	227	218	208
	③小学校	詫間	428	378	360	370	348	337	320	308	289	279
		学級数	19	18	18	18	18	18	18	18	15	13
		仁尾	148	141	136	136	128	124	118	114	108	105
		学級数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
		児童計	576	519	496	506	476	461	438	422	397	384
	学級計	20	18	18	18	18	18	17	15	12	12	
高瀬2 山本 財田	④中学校	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116	113
		学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
		三中(山本)	145	138	123	82	102	98	94	91	86	83
		学級数	6	6	4	3	3	3	3	3	3	3
		和光	72	71	59	45	50	48	45	44	42	40
		学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
		生徒数計	396	385	337	248	292	279	266	258	244	236
	④小学校	高瀬2	311	278	260	271	256	247	235	227	213	204
		学級数	12	11	11	12	12	12	12	12	9	7
		山本	235	205	182	199	189	183	174	167	157	150
		学級数	9	7	6	6	6	6	6	6	6	6
		財田	113	99	89	97	92	88	84	81	76	74
		学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
	児童計	659	582	531	567	537	518	493	475	446	428	
	学級計	21	18	17	18	18	18	18	18	18	16	
計	中学校	生徒合計	1,561	1,457	1,248	1,062	1,156	1,105	1,049	1,012	966	925
		学級数合計	50	48	40	37	39	39	38	36	35	31
	小学校	児童数合計	2,549	2,321	2,201	2,243	2,116	2,044	1,943	1,872	1,759	1,695
		学級数合計	85	77	76	78	76	74	69	65	60	58

将来推計からの児童・生徒数と学級数(中学校3校の場合の小中地域別集計)

国の適正規模数からの小中一貫教育校の検討

大規模校 小規模校 適正規模

三中は山本のみで算出

適正規模数はR15年時

高瀬1 (上高瀬・比地) : 高瀬2 (勝間・二ノ宮・麻)

地域	区分		R 8	R 1 0	R 1 3	R 1 5	R 1 8	R 2 0	R 2 3	R 2 5	R 2 8	R 3 0
詫間 仁尾 三野	①中学校	詫間	311	272	203	168	191	182	173	166	159	152
		学級数	10	9	7	6	6	6	6	6	6	6
		仁尾	122	93	73	62	70	67	64	61	59	56
		学級数	6	4	3	3	3	3	3	3	3	3
		三野津	245	225	199	195	190	182	173	167	158	152
		学級数	8	7	8	7	6	6	6	6	6	6
		生徒数	678	590	475	425	451	431	410	394	376	360
	①小学校	詫間	428	378	360	370	348	337	320	308	289	279
		学級数	19	18	18	18	18	18	18	18	15	13
		仁尾	148	141	136	136	128	124	118	114	108	105
		学級数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
		三野	418	387	374	369	349	337	319	307	290	279
		学級数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
		児童数	994	906	870	875	825	798	757	729	687	663
学級数	32	29	29	29	26	24	24	24	24	24		
高瀬1 豊中	②中学校	高瀬1	197	188	171	153	159	153	144	139	133	127
		学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
		豊中	290	294	265	236	254	242	229	221	213	202
		生徒数	487	482	436	389	413	395	373	360	346	329
	②小学校	高瀬1	347	320	305	309	291	281	267	257	241	233
		学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
		豊中	549	513	495	492	463	447	426	411	385	371
		児童数	896	833	800	801	754	728	693	668	626	604
学級数	28	27	25	25	24	24	24	24	21	19		
高瀬2 山本 財田	③中学校	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116	113
		学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
		三中(山本)	145	138	123	82	102	98	94	91	86	83
		学級数	6	6	4	3	3	3	3	3	3	3
		和光	72	71	59	45	50	48	45	44	42	40
		学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
		生徒数	396	385	337	248	292	279	266	258	244	236
	③小学校	高瀬2	311	278	260	271	256	247	235	227	213	204
		学級数	12	11	11	12	12	12	12	12	9	7
		山本	235	205	182	199	189	183	174	167	157	150
		学級数	9	7	6	6	6	6	6	6	6	6
		財田	113	99	89	97	92	88	84	81	76	74
		学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
計	中学校	生徒合計	1,561	1,457	1,248	1,062	1,156	1,105	1,049	1,012	966	925
		学級数合計	46	46	36	34	34	36	30	33	30	33
小学校	児童数合計	2,549	2,321	2,201	2,243	2,116	2,044	1,943	1,872	1,759	1,695	
	学級数合計	81	74	71	72	68	66	66	66	63	59	

←統合した場合の学級数

←統合した場合の学級数

←統合した場合の学級数

←統合した場合の学級数

←統合した場合の学級数

←統合した場合の学級数

将来推計からの児童・生徒数と学級数(中学校2校の場合の小中地域別集計)

国の適正規模数からの小中一貫教育校の検討

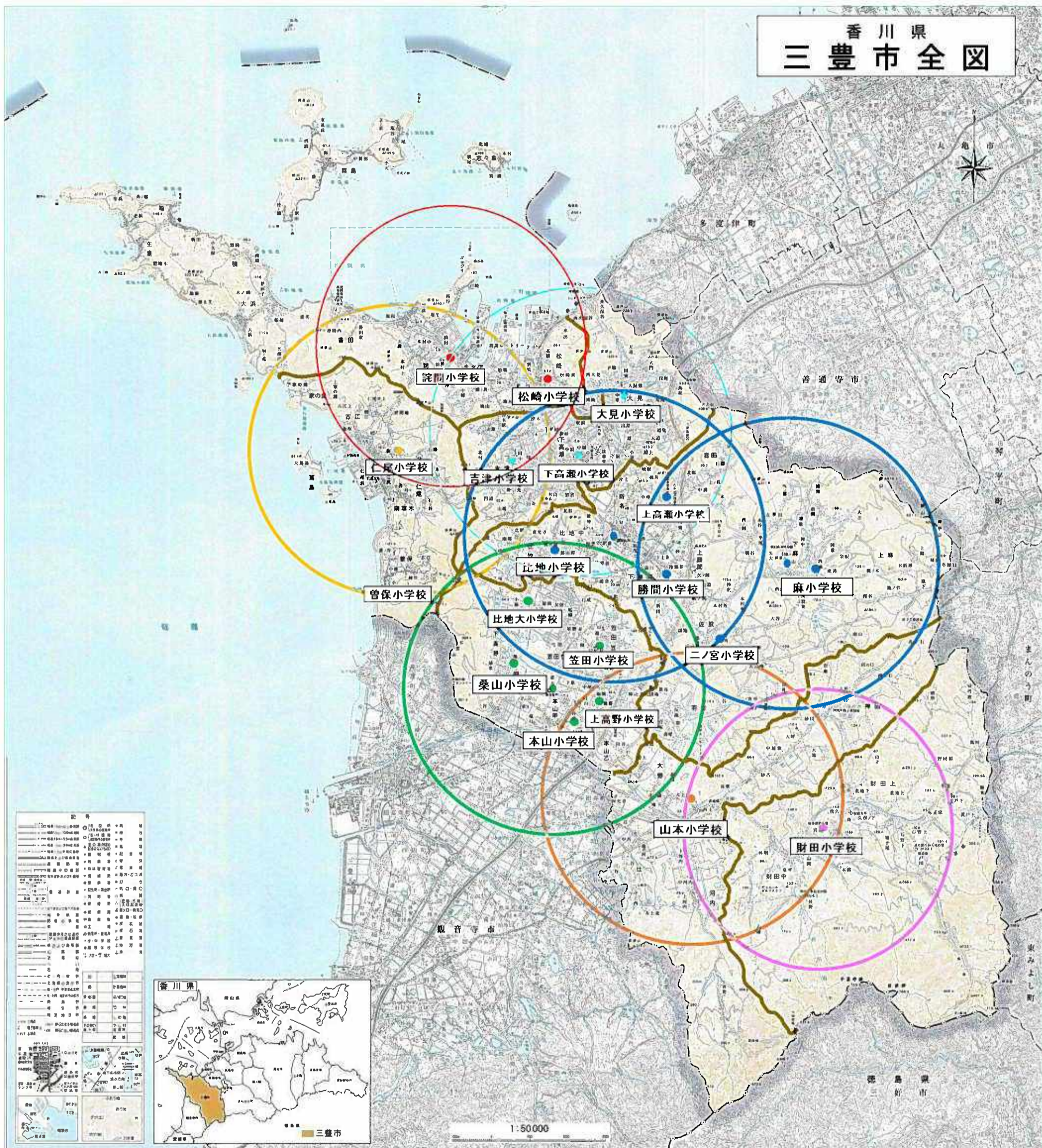
大規模校 小規模校 適正規模

三中は山本のみで算出

適正規模数はR15年時

高瀬1 (上高瀬・比地) 高瀬2 (勝間・二ノ宮・麻)

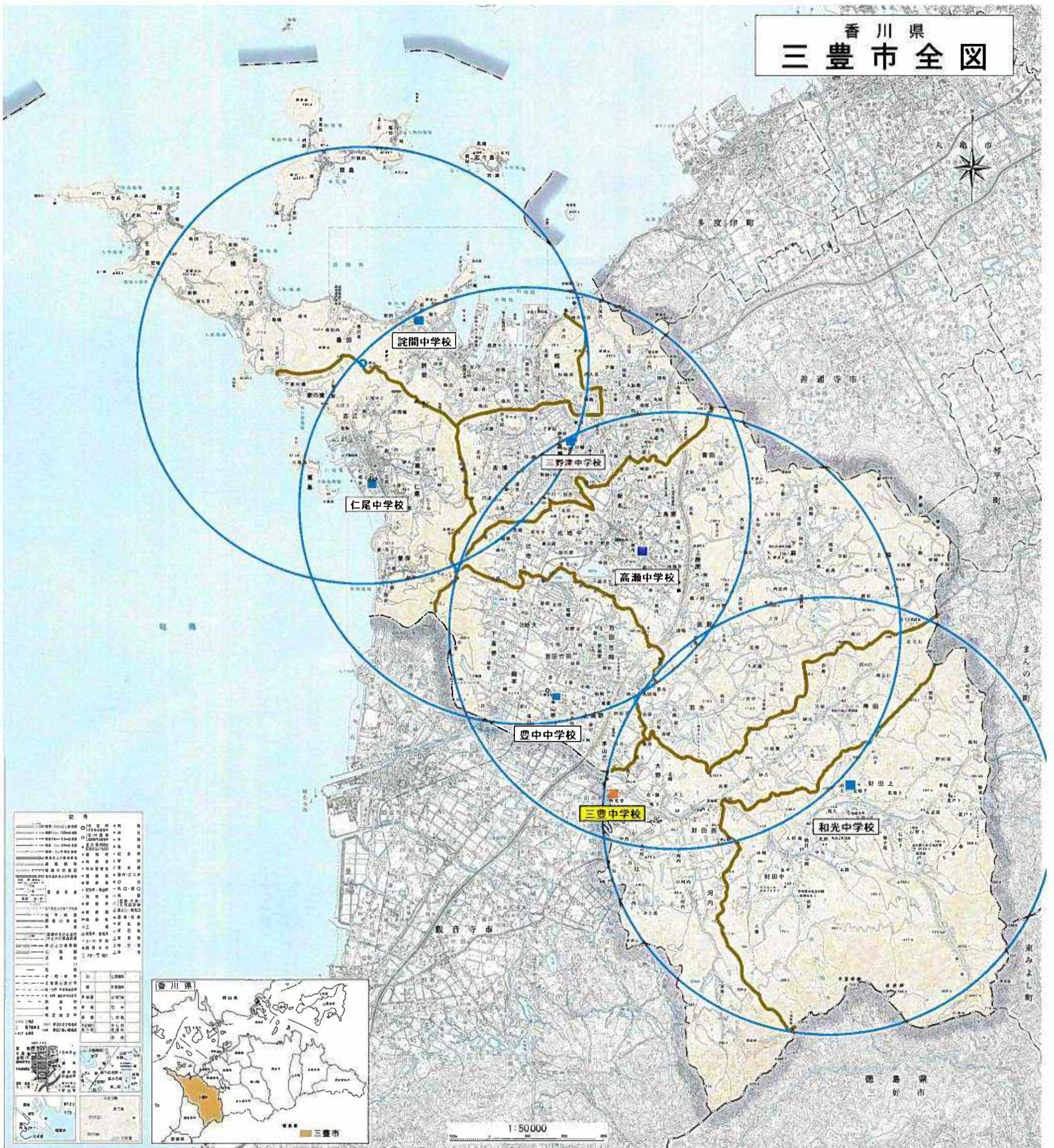
地域	区分		R 8	R 1 0	R 1 3	R 1 5	R 1 8	R 2 0	R 2 3	R 2 5	R 2 8	R 3 0
説間 仁尾 三野 高瀬1	①中学校	説間	311	272	203	168	191	182	173	166	159	152
		学級数	10	9	7	6	6	6	6	6	6	6
		仁尾	122	93	73	62	70	67	64	61	59	56
		学級数	6	4	3	3	3	3	3	3	3	3
		三野	245	225	199	195	190	182	173	167	158	152
		学級数	8	7	8	7	6	6	6	6	6	6
		高瀬1	197	188	171	153	159	153	144	139	133	127
		学級数	9	8	6	6	6	6	6	6	6	6
		生徒数	875	778	646	578	610	584	554	533	509	487
	学級数	27	24	20	17	18	18	18	18	15	15	
	①小学校	説間	428	378	360	370	348	337	320	308	289	279
		学級数	19	18	18	18	18	18	18	18	15	13
		仁尾	148	141	136	136	128	124	118	114	108	105
		学級数	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
		三野	418	387	374	369	349	337	319	307	290	279
		学級数	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
		高瀬1	347	320	305	309	291	281	267	257	241	233
		学級数	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12
児童数計		1,341	1,226	1,175	1,184	1,116	1,079	1,024	986	928	896	
学級数計	41	37	35	36	36	35	32	30	30	30		
高瀬2 豊中 山本 財田	②中学校	高瀬2	179	176	155	121	140	133	127	123	116	113
		学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
		豊中	290	294	265	236	254	242	229	221	213	202
		学級数	10	10	9	9	9	9	9	9	8	6
		三中(山本)	145	138	123	82	102	98	94	91	86	83
		学級数	6	6	4	3	3	3	3	3	3	3
		和光	72	71	59	45	50	48	45	44	42	40
		学級数	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
		生徒数	686	679	602	484	546	521	495	479	457	438
	学級数	21	21	19	16	18	16	15	15	15	15	
	②小学校	高瀬2	311	278	260	271	256	247	235	227	213	204
		学級数	12	11	11	12	12	12	12	12	9	7
		豊中	549	513	495	492	463	447	426	411	385	371
		学級数	19	18	18	18	18	18	16	14	12	12
		山本	235	205	182	199	189	183	174	167	157	150
		学級数	9	7	6	6	6	6	6	6	6	6
		財田	113	99	89	97	92	88	84	81	76	74
		学級数	6	6	6	6	6	6	6	6	6	6
児童数計		1,208	1,095	1,026	1,059	1,000	965	919	886	831	799	
学級数計	38	35	33	33	30	30	30	29	26	24		
計	中学校	生徒合計	1,561	1,457	1,248	1,062	1,156	1,105	1,049	1,012	966	925
		学級数合計	48	45	39	33	36	34	33	33	30	30
	小学校	児童数合計	2,549	2,321	2,201	2,243	2,116	2,044	1,943	1,872	1,759	1,695
		学級数合計	79	72	68	69	66	65	62	59	56	54



半径4K範囲図

地域	R8	R10	R13	R15	R18	R20	R23	R25	R28	R30
立派	347	320	305	309	291	281	267	257	241	233
立派	14	14	12	12	12	12	12	12	12	12
立派	311	278	260	271	256	247	235	227	213	204
立派	12	11	11	12	12	12	12	12	9	7
立派	235	209	192	195	180	174	167	157	147	130
立派	418	387	374	369	340	337	319	307	290	279
立派	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18
立派	549	513	495	492	463	447	426	411	385	371
立派	19	18	18	18	18	18	16	16	12	12
立派	428	378	369	370	346	337	326	308	289	278
立派	15	15	15	15	15	15	15	15	15	15
立派	148	141	136	136	128	124	118	114	108	105
立派	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
立派	113	99	97	97	92	88	84	81	76	74
立派	9	9	9	9	9	9	9	9	9	9
立派	2,562	2,321	2,201	2,243	2,116	2,065	1,943	1,874	1,759	1,656
立派	104	94	96	99	99	99	97	95	87	83

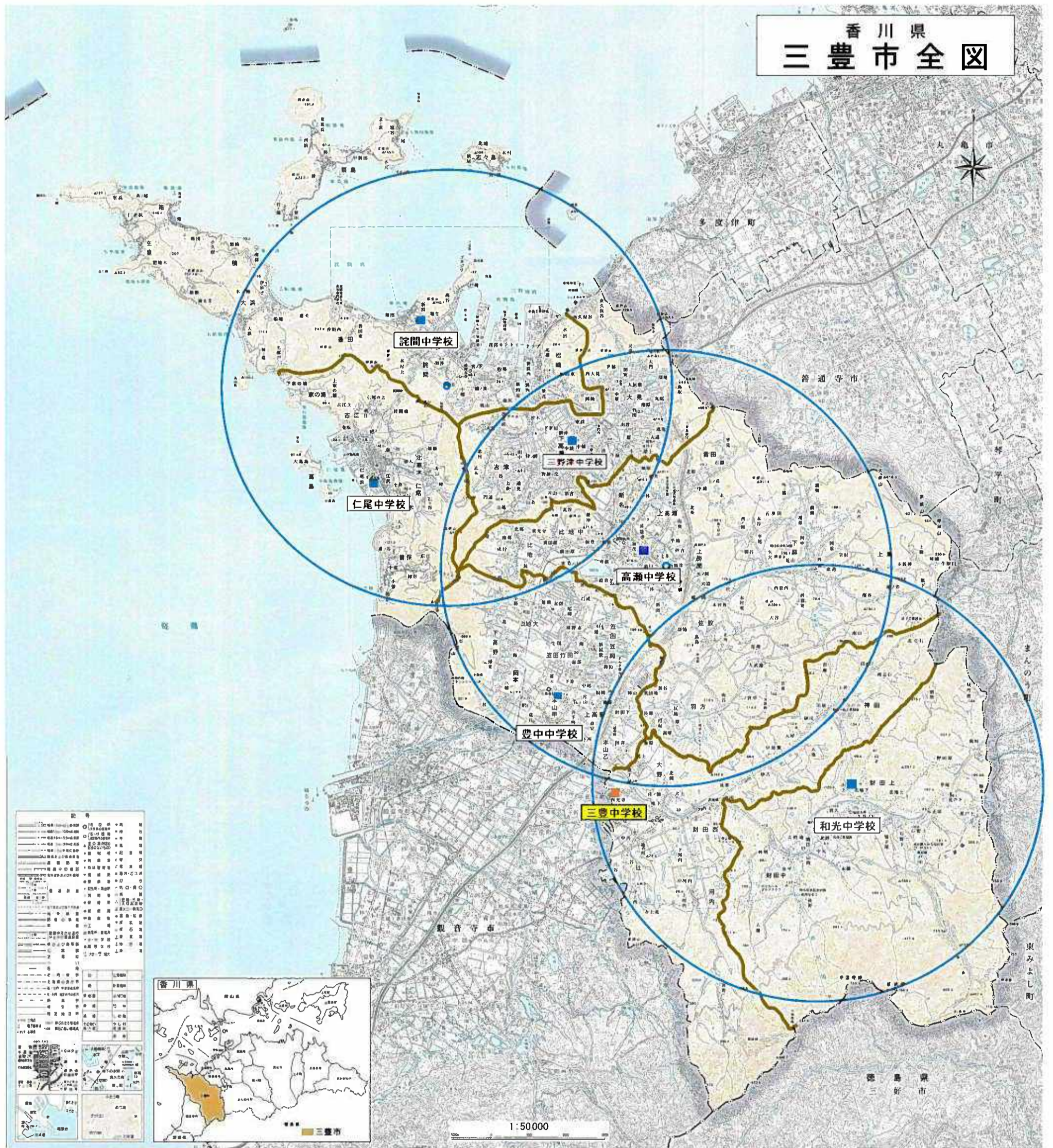
香川県 三豊市全図



半径6K範囲図
4校(仮)

地区	学校	高1	R8	N10	N13	N15	N18	R20	R23	R25	R28	R30
高津1 三野	高津1	197	188	171	150	159	153	144	139	133	127	
	三野津	245	225	199	191	190	182	173	167	158	152	
	牛員数	442	413	370	341	349	335	317	306	291	279	
豊中	豊中	290	294	265	238	254	242	229	221	213	204	
	鉄砲	311	273	203	164	191	182	173	166	159	153	
	牛員数	601	567	468	402	445	424	402	387	380	357	
詫間 仁尾	詫間	122	93	73	51	70	67	64	61	59	56	
	仁尾	433	365	276	230	261	249	237	227	218	208	
	牛員数	555	458	349	281	321	316	301	288	287	264	
高津2 山田 財田	高津2	179	176	165	121	140	133	127	123	116	113	
	山田	145	138	123	81	102	98	94	91	86	83	
	財田	72	71	59	41	50	48	45	44	42	40	
合計	牛員数	396	385	337	244	279	266	258	244	236	224	
	牛員数	12	12	10	8	9	9	9	9	9	9	
	牛員数合計	1,561	1,497	1,248	1,096	1,110	1,109	1,049	1,012	966	929	
		牛員数合計	50	48	40	31	39	38	36	35	33	

香川県 三豊市全図



記号

○	市庁舎
△	支庁庁舎
□	町庁舎
◇	村庁舎
●	市立小中学校
○	町立小中学校
△	村立小中学校
◇	私立小中学校
○	市立高等学校
△	町立高等学校
◇	村立高等学校
◇	私立高等学校
○	市立特別支援学校
△	町立特別支援学校
◇	村立特別支援学校
◇	私立特別支援学校
○	市立図書館
△	町立図書館
◇	村立図書館
◇	私立図書館
○	市立公民館
△	町立公民館
◇	村立公民館
◇	私立公民館
○	市立児童館
△	町立児童館
◇	村立児童館
◇	私立児童館
○	市立青少年センター
△	町立青少年センター
◇	村立青少年センター
◇	私立青少年センター
○	市立生涯学習センター
△	町立生涯学習センター
◇	村立生涯学習センター
◇	私立生涯学習センター
○	市立スポーツセンター
△	町立スポーツセンター
◇	村立スポーツセンター
◇	私立スポーツセンター
○	市立文化センター
△	町立文化センター
◇	村立文化センター
◇	私立文化センター
○	市立生涯学習センター
△	町立生涯学習センター
◇	村立生涯学習センター
◇	私立生涯学習センター
○	市立生涯学習センター
△	町立生涯学習センター
◇	村立生涯学習センター
◇	私立生涯学習センター



1:50,000

地域	小中学校	児童数	第1区	第2区	第3区	第4区	第5区	第6区	第7区	第8区	第9区	第10区
詫間 三野 三野	児童数	311	272	203	166	191	182	173	156	159	192	192
	児童数	122	93	73	62	76	67	64	61	69	68	68
	児童数	24	22	19	19	19	18	17	16	15	14	13
高瀬1 豊山	児童数	676	590	475	425	451	431	410	394	376	360	360
	児童数	157	168	171	153	159	153	144	139	133	127	127
	児童数	29	29	26	23	24	24	22	21	21	20	20
高瀬2 山北 財田	児童数	467	482	436	389	411	395	373	360	340	329	329
	児童数	15	15	14	13	12	12	12	12	12	12	12
	児童数	119	116	111	121	140	133	127	123	116	113	113
和光	児童数	145	138	123	82	102	98	94	91	88	83	83
	児童数	72	71	59	45	50	48	45	44	42	40	40
	児童数	39	38	33	24	29	27	26	25	24	23	23
合計	児童数	1,561	1,457	1,248	1,066	1,156	1,105	1,049	1,012	968	928	928
	児童数	46	46	36	34	34	36	30	33	30	33	33
	児童数	1,515	1,411	1,212	1,032	1,122	1,069	1,019	979	938	935	935

半径6K範囲図
3校(仮)

令和3年度の「香川型指導体制」について

1 要旨

香川型指導体制は、新学習指導要領の円滑な実施や児童生徒の問題行動など、学校が直面する諸課題に積極的に対応し、すべての児童生徒の学力向上に向けた指導の充実を図ることを目指し、**小・中学校における35人学級の実施**、**小学校高学年における専科指導の拡充**を2つの柱とする新しい指導体制を実施します。

2 内容

小・中学校における35人学級の実施

小学校全学年と中学校1、2年生で35人学級を実施します。

小学校1、2年生は、義務標準法に基づき、編制基準が35人です。

中学校1、2年生は、本県の編制基準を35人とし、定数配置します。

小学校は、これまでの3～4年生に加えて、5、6年生についても、35人学級の実施によって増加する学級数分（学級担任分）を加配措置します。

また、中学校3年生で、学校や市町（学校組合）教育委員会の要望がある場合、個別協議の上、少人数指導のための加配定数を活用して少人数学級を実施することも可能とします。

小学校高学年における専科指導の拡充

小学校において、児童の意欲・関心を高めたり理解を深めたりできるよう、専門性の高い指導や授業の質の向上を図るために、小学校高学年において、3～4教科、週5～7時間程度、専科担当教員による専門的な指導に必要な加配措置をします。

加えて、学級経営の安定を図り、学力向上の基盤となる生活規律や学習習慣の指導の徹底や基礎学力の定着を図る指導の充実のため、特別な支援を要する児童生徒や生徒指導上の課題のある児童生徒への対応等についても充実を図ります。

① 少人数指導

小学校の4教科、中学校の5教科を対象とし、学校が実情に応じて、実施教科の選択や指導形態の工夫を行い、20数人程度の少人数指導等を実施できるようにします。

② 専任特別支援教育コーディネーター

専任の特別支援教育コーディネーターを配置し、保護者との信頼関係の構築や学校内の関係者や福祉、医療等の関係機関との連絡調整を行うことで、校内体制を整備し、組織的な対応により特別支援に関する課題を克服できるようにします。

③ 生徒指導対応

小中学校での問題行動多発化に見られる荒れ等に対応し、円滑な授業実施のため、学年・学校全体に日常的に関わる教員を配置し、組織体制による指導を実施できるようにします。

1. 小中一貫教育校について

1) 小中連携、小中一貫教育と義務教育学校の制度化までの経緯

教育再生実行会議の第5次提言や中央教育審議会答申を経て、平成27年(2015年)6月小学校と中学校の9年間の義務教育を一貫して行う小中一貫校を制度化する学校教育法等の一部を改正する法律が、参議院本会議で可決成立した。これにより、小中一貫校は同法第1条で義務教育学校という一つの学校種に規定され平成28(2016年)年度から小中一貫教育を実施する学校として創設されることになった。

2) 義務教育学校と小中一貫校の違い

義務教育学校と小中一貫校は、どちらも小学校と中学校の「区切り」を減らし、義務教育期間である9年間の学習をトータルで考えられるように創設された仕組み。

二つの大きな違いといえば、小中一貫校が小学校・中学校にそれぞれ校長や教職員組織が立てられているのに対し、義務教育学校は小学校・中学校通して一人の校長、一つの組織となっていること。これにより義務教育学校の学年制を「6・3」ではなく、「5・4」や「4・3・2」などの柔軟な学年段階の区切りを設定することが容易になり、早い段階からの先を見据えた学習が取り入れやすくなっている。

また、一貫教育の軸となる新教科等の創設や、学年段階間での指導内容の入替え、前倒し等、一貫教育の実施に必要な教育課程上の特例を設置者の判断で実施することが認められている。

3) 義務教育学校のメリット・デメリット

一般的に小学校から中学校へ変わるときには、通学距離や制服・友達顔ぶれに加え、先生たちの考え方や授業内容も大きく変わることが多々ある。このような変化で子どもたちがつまずきを感じてしまうことを「中1ギャップ」といい、成績の低下や不登校の要因となることも。義務教育学校では小学校・中学校というハッキリした区切り感なく徐々に移行していけるため、中学校過程にあたる後期まで大きく環境を変えることなく学べるというメリットがある。さらには前期・中期・後期などゆるやかなまとまりにすることで、振り返りや確認など不要な授業内容の重複を避けた、効率的な学習が期待できる。その反面、9年間ずっと同じ顔ぶれ・雰囲気になりやすく、新たな変化へのキッカケが見つかりにくいというデメリットも。また、学校の統廃合により義務教育学校となることも多いため、遠い地域から通学せざるを得ない場合は負担が増えてしまう可能性もある。

2. 小中一貫教育導入のねらい

大目的

義務教育9年間を連続した教育課程として捉え、児童生徒・学校・地域の実情等を踏まえた具体的な取組内容の質を高めること。

例えば

・小中のギャップ(いじめ、不登校、暴力行為の増加、環境の変化・勉強が難しくなること

へのストレス)への対応が必要ではないか？

といった問いに向き合い、目の前の子どもたちの課題に応じた対応を模索することが、前述の法令上の要請と相まって、重要性を増してきた。

3. 公立学校の小中連携、小中一貫教育推進の背景

かつては、小中一貫(教育)校といえば、国立(国立大学法人)や私立の学校がほとんどであった。しかし、個々の児童・生徒の発達に対応した教育を行っていくためには、小学校と中学校の間で連続性、系統性等の一貫性をもたせた教育を行うことの重要性や意義が見いだされ、小中一貫教育を推進したり、小中一貫(教育)校を開設したりする市区町村が全国各地で増えた。

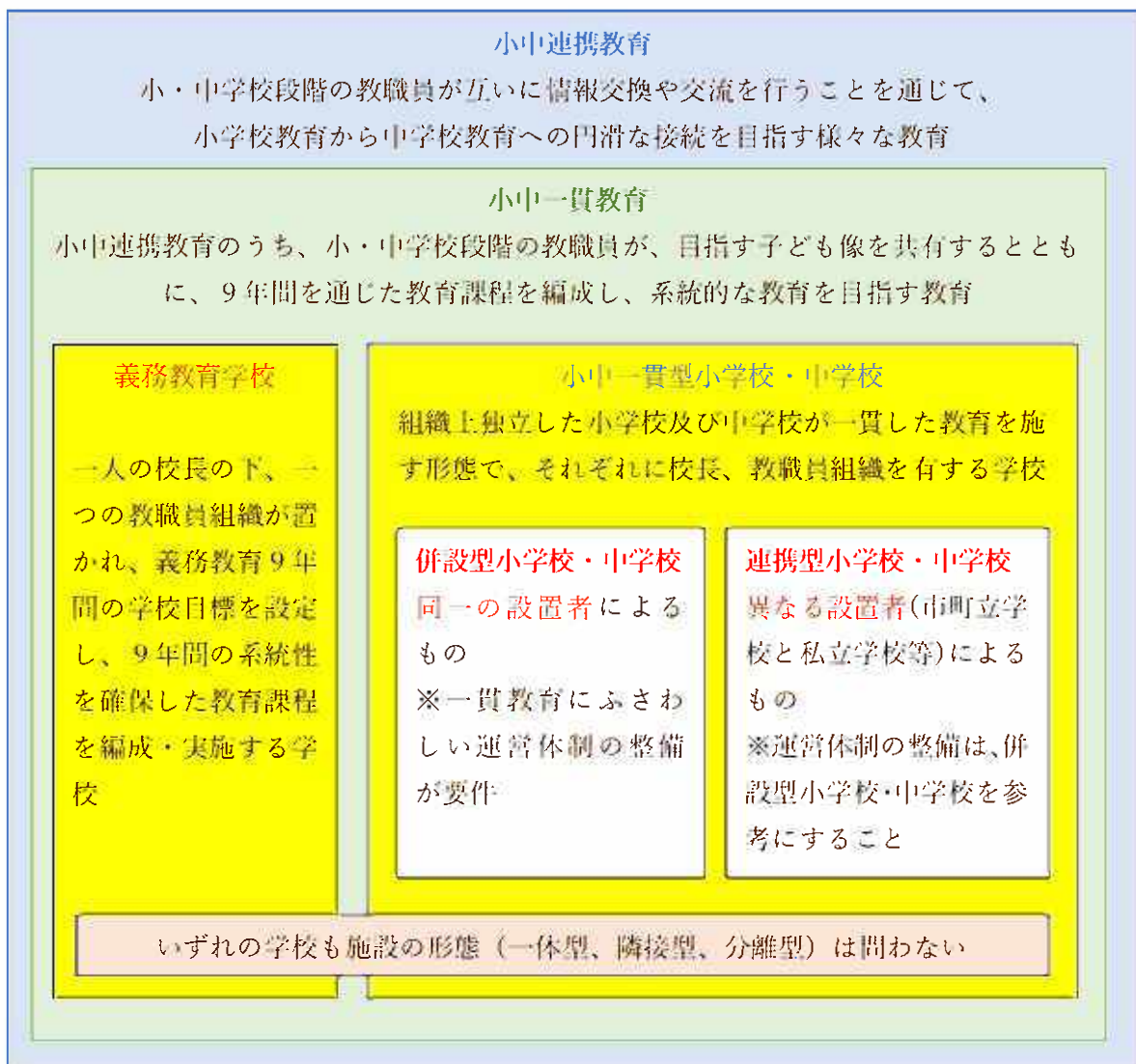
4. 小中一貫教育の導入校数



5. 小中連携、小中一貫、小中一貫教育制度の関係

小中一貫教育の制度化に伴い、小中連携教育及び小中一貫教育、小中一貫教育制度の関係を整理すると、下図のようになる。

- ・小中一貫教育は、「小中連携教育」のうちの一つである
- ・小中一貫教育を行う学校は、「義務教育学校」と「小中一貫型小学校・中学校」に分けられる。
- ・義務教育学校、小中一貫型小学校・中学校のいずれにおいても、施設一体型や施設隣接型、施設分離型といった施設形態は問わない



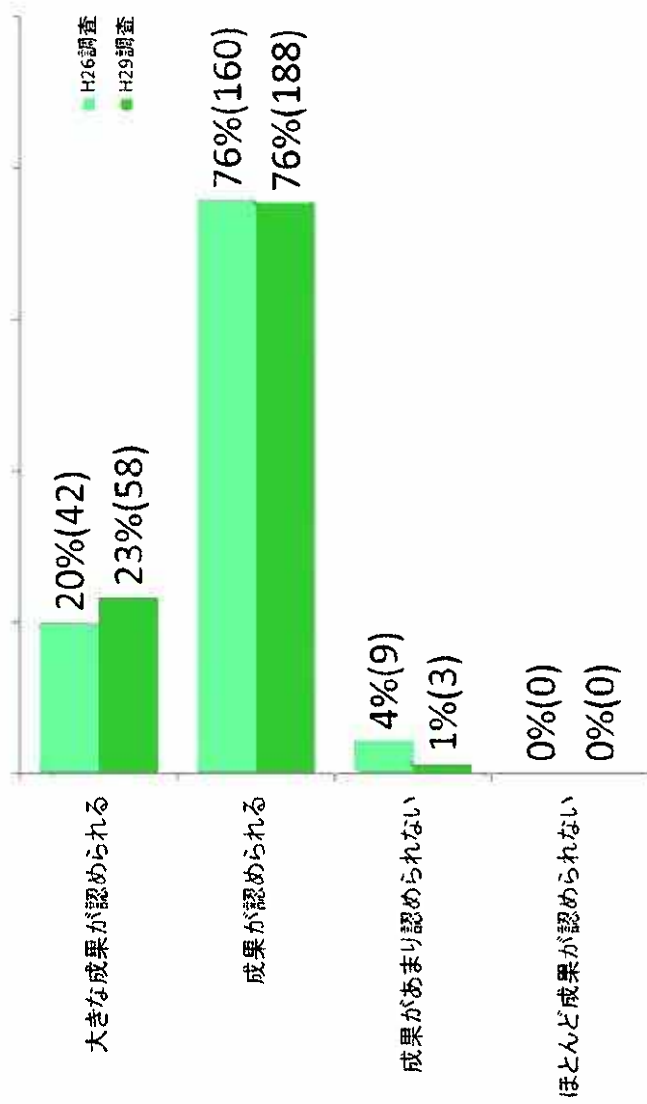
(参考) 小中一貫教育に関する制度の類型

義務教育学校		小中一貫型小学校・中学校
中学校併設型小学校 小学校併設型中学校		中学校連携型小学校 小学校連携型中学校
設置者	同一の設置者	異なる設置者
修業年限	9年 (前期課程6年+後期課程3年)	小学校6年、中学校3年
組織・運営	一人の校長、一つの教職員組織	それぞれ各学校に校長、教職員組織 中学校併設型小学校と小学校併設型中学校を参考に、適切な運営体制を整備すること
免許	原則小学校・中学校の両免許状を併有 ※ 三分の二が小学校免許状で前期課程、三分の一が中学校免許状で後期課程の併有が可能	所属する学校の免許状を保有していること
教育課程	・9年間の教育目標の設定 ・9年間の系統性・体系性に配慮がなされている教育課程の編成	
教育課程の特例	一貫教育に必要な独自教科の設定 指導内容の入替え・移行	○ ○ ○ ×
施設形態	施設一体型・施設隣接型・施設分離型	
設置基準	前期課程は小学校設置基準、後期課程は中学校設置基準を準用	小学校には小学校設置基準を適用
標準規模	18学級以上27学級以下	小学校、中学校それぞれ12学級以上18学級以下
通学距離	おおむね6km以内	小学校はおおむね4km以内、中学校はおおむね6km以内
設置手続	市町村の条例	市町村教育委員会の規則等

6. 小中一貫教育の成果と課題（平成26年度調査との比較）

小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価（成果）

【公立】



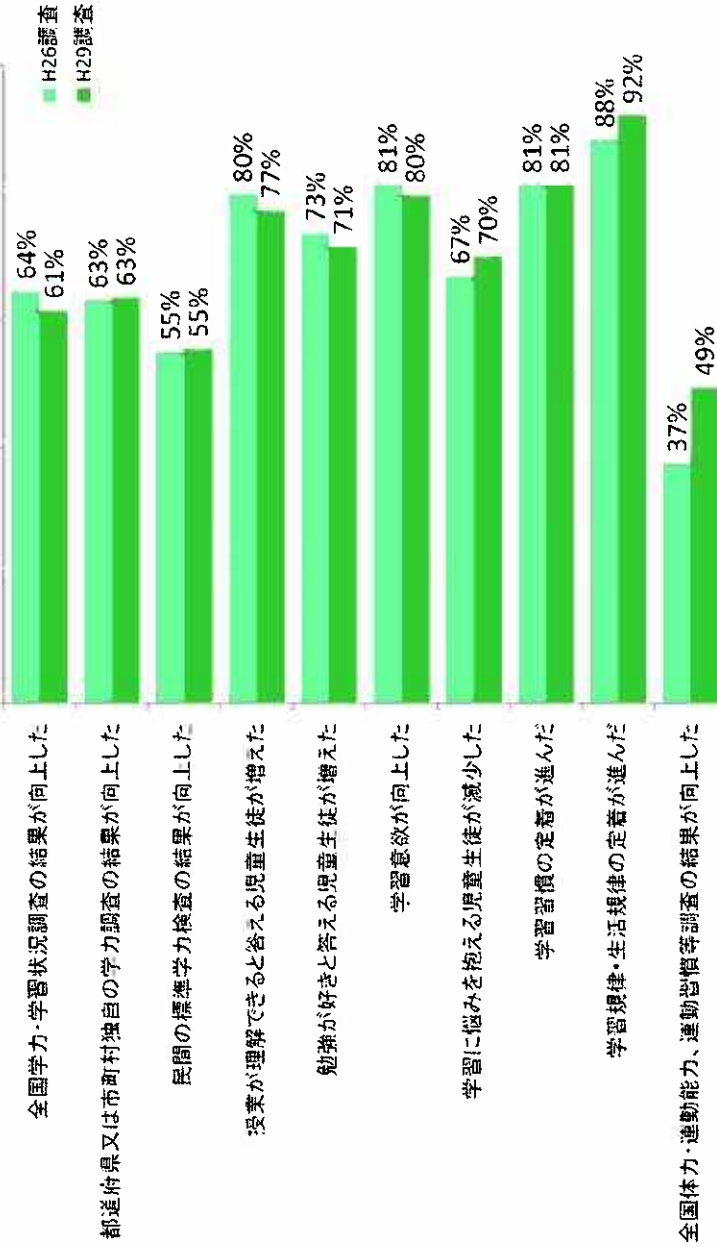
回答：H26 211市区町村（小中一貫教育実施市区町村）
H29 249市区町村（小中一貫教育実施市区町村）

小中一貫教育の成果①

【公立】

学習指導等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



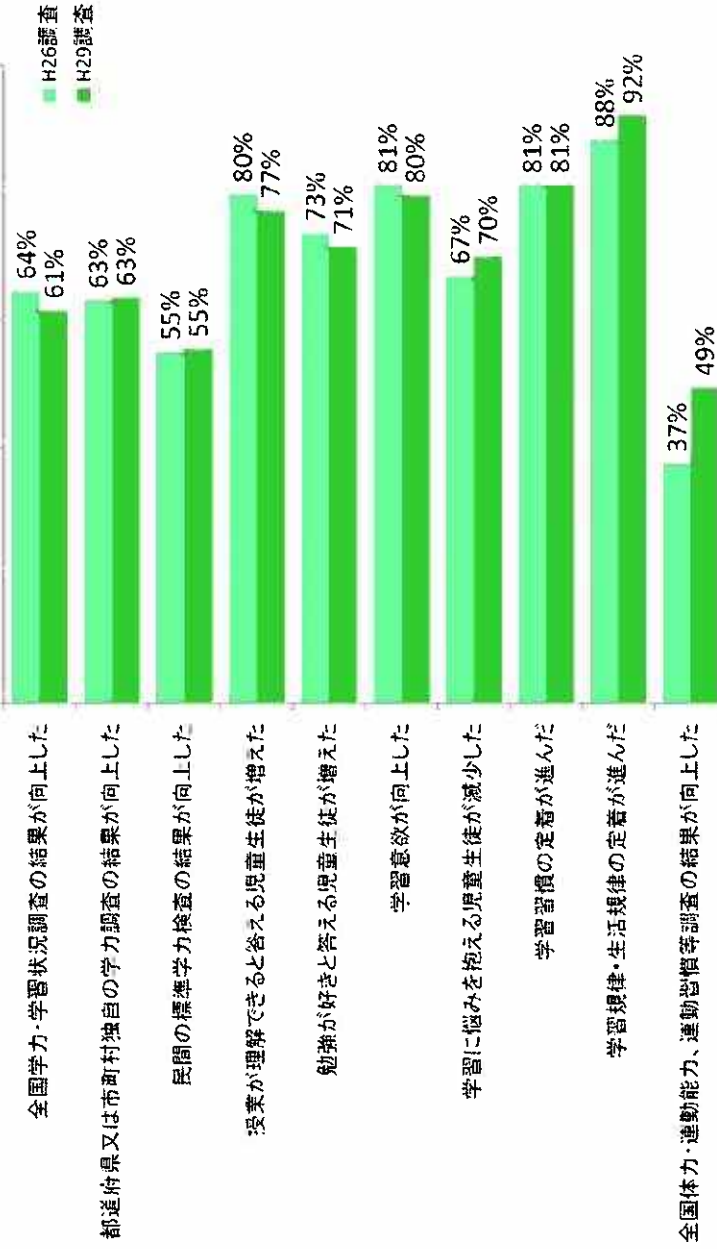
回答：H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

小中一貫教育の成果①

【公立】

学習指導等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



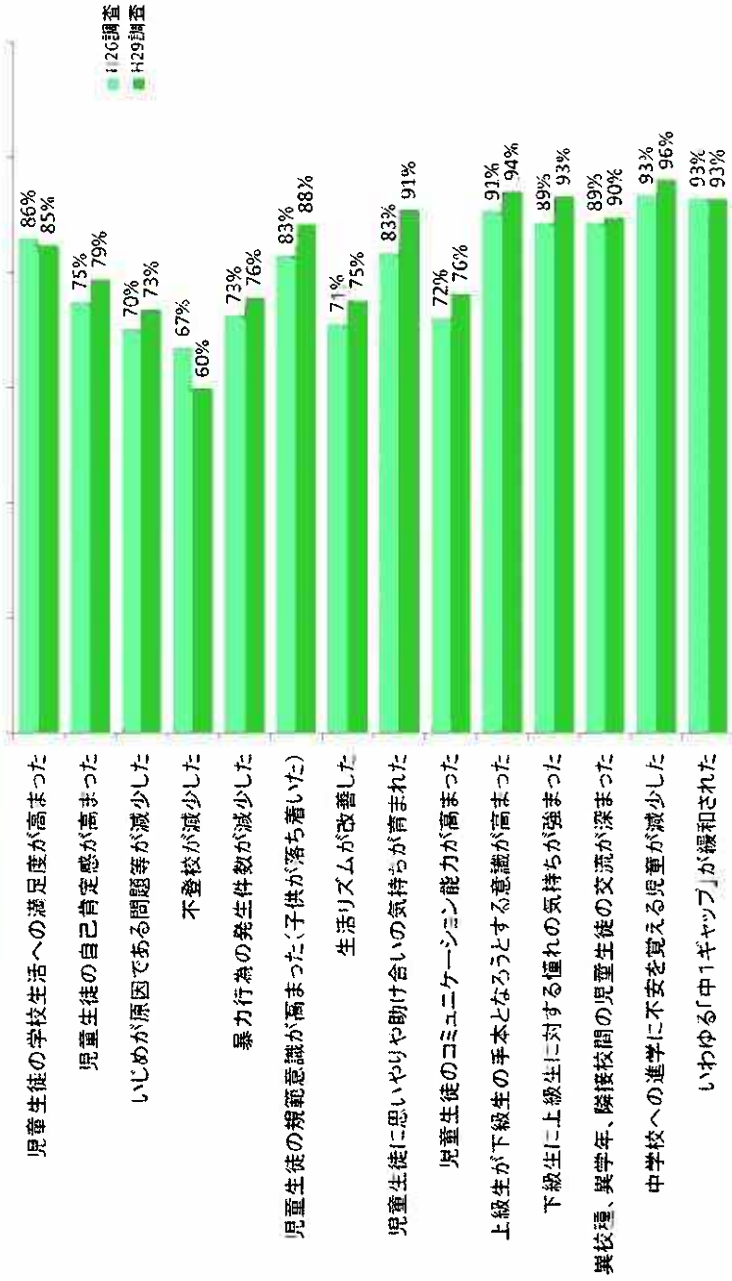
回答：H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

小中一貫教育の成果②

【公立】

生徒指導等

※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



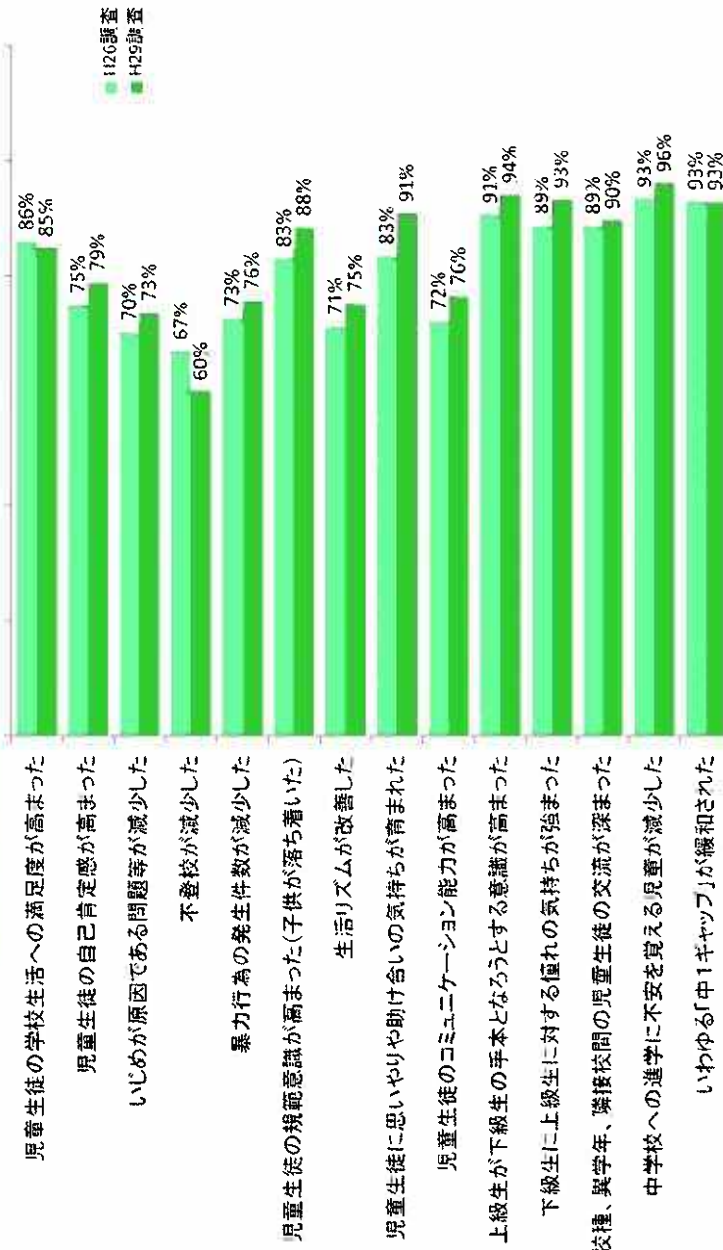
回答：H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

小中一貫教育の成果②

【公立】

生徒指導等

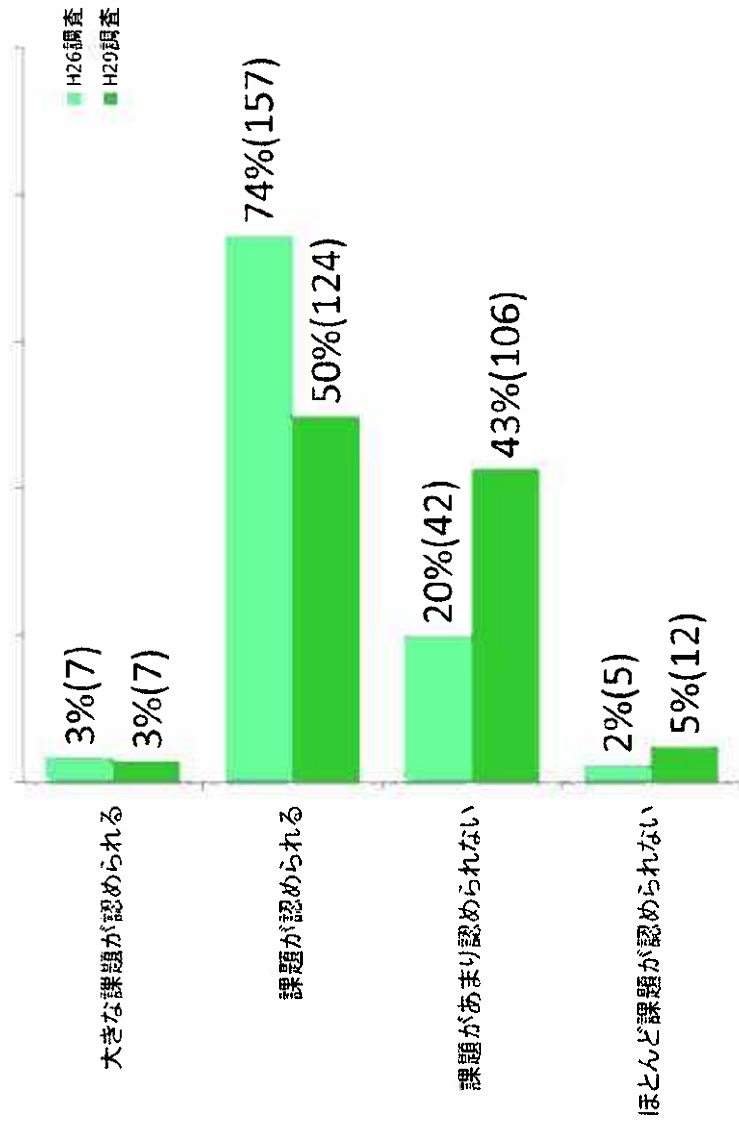
※「大きな成果が認められる」、「成果が認められる」と回答した割合



回答：H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

小中一貫教育のこれまでの取組の総合的な評価(課題)

【公立】



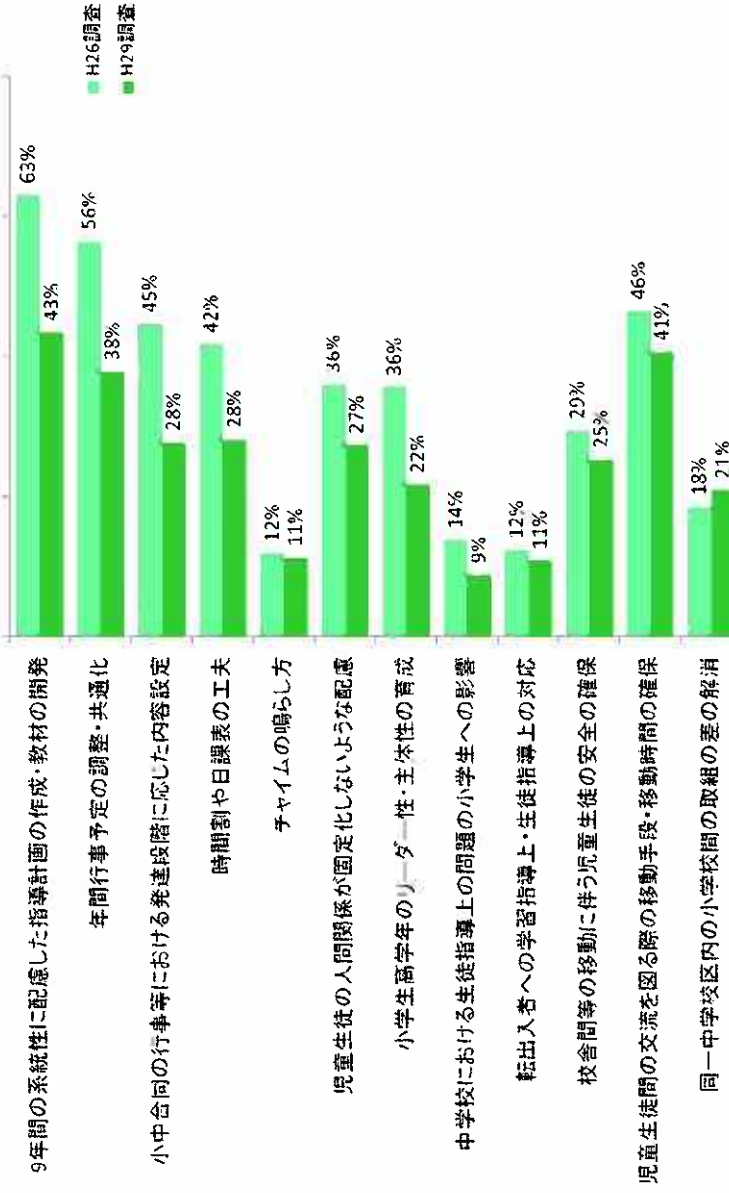
回答: H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)
 H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

小中一貫教育の課題①

【公立】

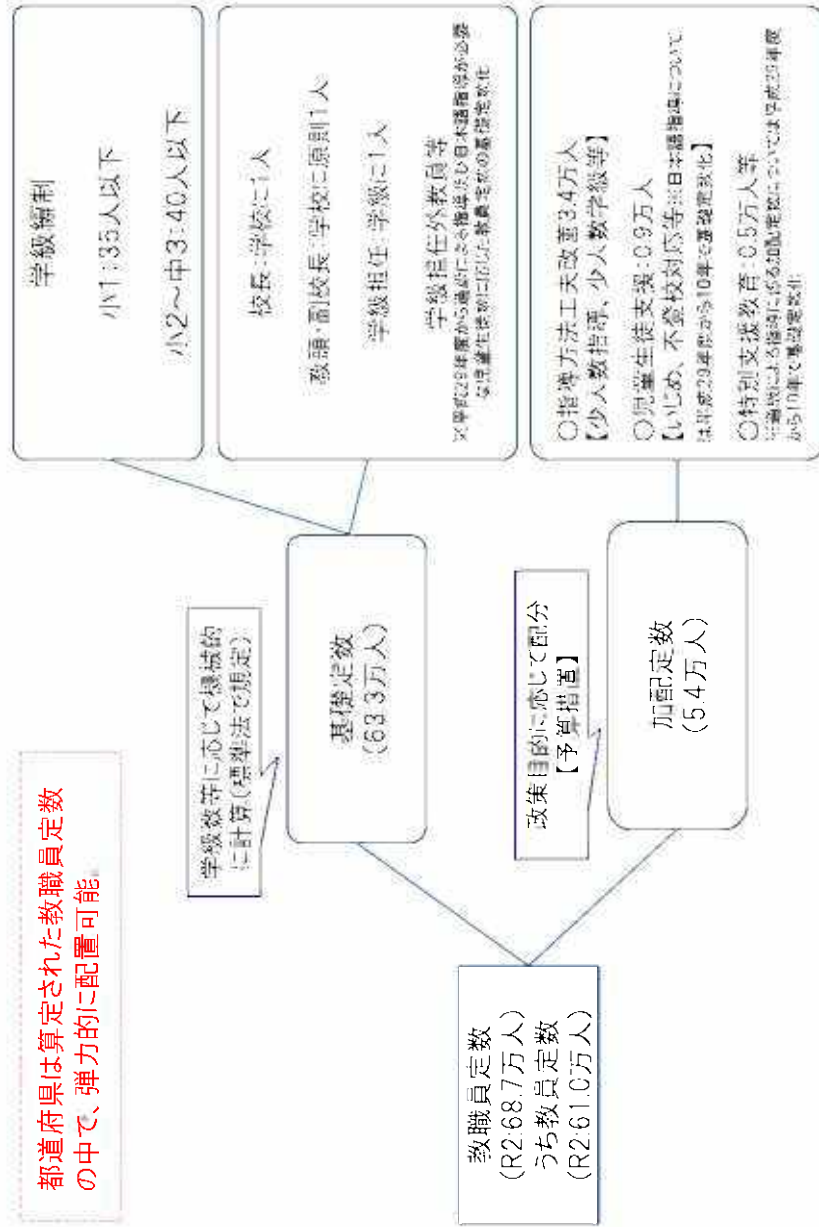
学習指導、生徒指導等

※「大きな課題が認められる」、「課題が認められる」と回答した割合



回答：H26 211市区町村(小中一貫教育実施市区町村)
H29 249市区町村(小中一貫教育実施市区町村)

学級編制・教職員定数の算定について（公立小中学校等の教職員定数算定の仕組み（イメージ））



学級編制・教職員定数の算定について（公立の小中学校の学級編制）

○義務標準法に規定する学級編制の標準

＜小・中学校＞	
小学校	中学校
同学年で編制する学級	40人
35人(1年生) 40人(2～6年生)	8人
複式学級(2学年)	特別支援学級
16人 (1年生を含む場合8人)	8人
特別支援学級	＜特別支援学校(小・中学部)＞
8人	6人(重複障害 3人)

（参考）
 ○小中は設置基準(文部科学省令)による学級の定数(1)を基礎とし、特別の定数がある場合は、通常に特別の定数がある場合を除き、五十人以下とする。ただし、特別の事情がある場合、必要とする場合は、この限りでない。

（学級の編制）
 普通科 小学校の学級は、同学年の定数(編制)をもととする。ただし、特別の事情があるときは、設置基準の定数を一学級に調整することになる。

○学級編制における国、都道府県、指定都市、市町村の関係



学級編制・教職員定数の算定について（公立の小中学校の教職員数の算定）

(1) 基礎定数（義務標準法第6条～第9条）

- ① 校長（第6条） 1学校に1人
- ② 教諭等（第7条1項）（学級数に応じて算定）
 - 教諭（第7条2～7号）（②に加え、学校規模等に応じて算定）
 - 小学校 27学級以上の学校に11人
 - 中学校 24学級以上の学校に11人
 - 生徒指導員
 - 小学校 30学級以上の学校数に1/2人
 - 中学校 18～29学級の学校数に1人、30学級以上の学校数に5/2人
 - 少人数指導員の担当教員
 - 児童生徒数
 - 200人から 299人までの学校数×0.25
 - 300人から 599人までの学校数×0.5
 - 600人から 799人までの学校数×0.75
 - 800人から1129人までの学校数×1.00
 - 1,200人以上の学校数 ×1.25
- 園長に相当する特別指導員（通級による指導）相当教員 13人に1人、その他
 - 日本酒指導担当教員 18人に1人、N
 - 初任者研修担当教員 6人に1人、N

(2) 加配定数（義務標準法第7条2項、15条）

- ① 教諭等
 - 指導方法工務指導員（第7条2項）
 - 少人数指導、児童個別指導、チーム・ティーチングなどのさめ田かな循環や小中学校における教科専門的な指導を行う場合に加配措置。
 - 児童生徒支援員（第15条2号）
 - いじめ、不登校や問題行動への対応のほか、他校や学校の状況に応じた教育指導上適切な配慮が必要となる場合に加配措置。
 - 特別支援教員（第15条3号）
 - 通級による指導への対応等のための加配措置。
 - 主幹教諭（第15条4号）
 - 主幹教諭の配置に伴うマネジメント機能強化のための加配措置。
 - 副校長等（第15条6号）
 - 資向上のための教員研修、師生者研修等のための加配措置。

④ 看護教諭（第8条）

- 3学級以上の学校に1人
- 児童配置
 - 小学校 児童生徒数851人以上の学校に11人
 - 中学校 児童生徒数501人以上の学校に11人

⑤ 栄養教諭・学校栄養職員（第8条の2）

- 児童生徒数549人以下の学校に1/4人
- 児童生徒数550人以上の学校に1人

- 特別支援員 児童生徒数 1500人以下の場合 1人
- 1500～3000人の場合 2人
- 3001人以上の場合 3人

⑥ 事務職員（第9条）

- 3学級の学校に3/4人、4学級の学校に1人
- 児童配置
 - 小学校 27学級以上の学校に11人
 - 中学校 21学級以上の学校に11人
- 空室医師を要する児童生徒が100人以上で、かつ当該学校の全校児童生徒数の25%を占める場合11人

② 看護教諭（第15条2号）

いじめ、児童生徒など心身の健康への対応のための加配措置。

③ 栄養教諭（第15条2号）

肥満・過食など食の指導への対応のための加配措置。

④ 事務職員（第15条5号）

学校事務の共同実業を導いた卒業後能力の強化のための加配措置

学校規模別教職員配置の標準（例）【小学校】

(単位:人)

学級数	校長	副校長・教頭	教				諭			教員計	養護教諭	事務職員	合計
			学級担任	担任外	生徒指導	指導方法工夫改善	小計						
3学級	1	—	3	0.75	—	—	—	3.75	4.75	1	0.75	6.50	
6学級	1	0.75	6	1.00	—	0.25	—	7.25	9.00	1	1	11.00	
12学級	1	1	12	1.50	—	0.50	—	14.0	16.00	1	1	18.00	
18学級	1	1	18	2.60	—	0.75	—	21.35	23.35	1	1	25.35	
24学級	1	1	24	3.00	—	1	—	28.0	30.00	2	1	33.00	
30学級	1	2	30	3.50	0.5	1	—	35.0	38.00	2	2	42.00	
36学級	1	2	36	3.90	0.5	1.25	—	41.65	44.65	2	2	48.65	
42学級	1	2	42	4.50	0.5	1.25	—	48.25	51.25	2	2	55.25	

※ 上記の定数のうち、教諭の指導方法工夫改善に係るもの及び養護教諭については、児童数に応じて算定されるが、1学級40人を超えて算定して算出。
 ※ 他に、児童の少人数化による加配定数や本道教育の加配定数、事務員数の加配定数などがある。また、学校給食の実施状況等に応じて、栄養教諭等の定数が変わる。

学校規模別教職員配置の標準（例）【中学校】

学級数	校 長	副校長・教頭	教				諭			教員計	看護教諭	非常職員	合 計
			教科担任	生徒指導	指導方法 工夫改善	小 計	教員計						
								教	諭				
3学級	1	0.5	7.5	-	-	7.5	9.0	10.75	1	0.75	10.75		
6学級	1	1	9.5	-	0.25	9.75	11.75	13.75	1	1	13.75		
9学級	1	1	14.5	-	0.50	15.0	17.0	19.0	1	1	19.0		
12学級	1	1	17.9	-	0.50	18.4	20.4	22.4	1	1	22.4		
15学級	1	1	22.5	-	0.75	23.25	25.25	27.25	1	1	27.25		
18学級	1	1	27.0	1.0	0.75	28.75	30.75	32.75	1	1	32.75		
21学級	1	1	31.6	1.0	1	33.6	35.6	39.6	2	2	39.6		
24学級	1	2	35.5	1.0	1	37.5	40.5	44.5	2	2	44.5		
27学級	1	2	40.0	1.0	1	42.0	45.0	49.0	2	2	49.0		
30学級	1	2	44.5	1.5	1.25	47.25	50.25	54.25	2	2	54.25		
33学級	1	2	49.0	1.5	1.25	51.75	54.75	58.75	2	2	58.75		
36学級	1	2	52.5	1.5	1.25	55.25	58.25	62.25	2	2	62.25		

※ 上記の定数のうち、教諭の指導方法工夫改善に係るもの及び看護教諭については、生徒数に応じて算定されるが、1学級40人石籍と仮定して算出。
 ※ 他に、教諭の少人数指導等の定数、看護教諭の加配定数、事務職員等の加配定数がある。また、学校給食の実施状況等に応じて、栄養教諭等の定数が加わる。

公立小中学校の学級規模の状況について①

資料の 見解

小学校の学級の9割、中学校の学級の7割が35人以下の学級。

- 35人以下の学級数の状況の要因の一つとして、都道府県・指定都市において、県費や国の配分の活用により独自の少人数学級の取組が行われていることがある。一方、少子化や独自の取組が進む中で、都道府県における学級規模のばらつきがあり、全国の一定の教育水準の均衡を図る環境整備が必要。
【30人を超える学級の割合：小学校：約4割、中学校：約7割】

● 少人数学級を実施している都道府県：指定都市【R1】

● 都道府県：指定都市別の1学級当たりの児童生徒数【R1】

✓ 63の都道府県が県費や国の加配を活用し少人数学級を実施。

✓ 少子化や自治体の取組により、都道府県のばらつきが大きい。

	30人以下	31～34人	35人	36～39人	純計
小学校	19	5	42	5	55
中学校	7	5	46	4	60
小・中学校純計	20	7	54	7	63

【小学校】全国平均：27.5人
最小：21.2人（A県） ← 最大：32.6人（B県・自治市）
10.8人の差

【中学校】全国平均：31.9人
最小：23.7人（A県） ← 最大：35.9人（B県・自治市）
12.2人の差
（Aは国平均、BはA県最大の自治市、いずれも単式学級の平均）

注1：学級規模標準の弾力的な運用について、小学校：2学年において35人未満、小学校3学年～中学校3学年において40人未満の学級編成を認めたい状況を確認している。

注2：同一学年で学級数や単式学級の取組が異なる場合は重複計上。

注3：統計日は、県の区分では県の区分が複数該当している都道府県市を除外した数である。上記の項目は、児童生徒の取組に応じて一部の学校を除く場合を含む。

（出典）文部科学省調べ、令和元年児童生徒基本調査を基に文部科学省作成。

公立小中学校の学級規模の状況について②

財政資料

小学校36人以上学級の約6割は東京都を含む5都府県に集中。これらの都府県では、指導方法工夫改善のための加配定数の多くを少人数学級ではなく、少人数指導等に活用。一方、既存の加配定数を少人数学級に充てている県も存在。少人数学級とするか少人数指導とするかは、各自治体が地域や学校の実情に応じて判断。

文科見解

1. 都市部においても、少人数学級の取組は行われており、また、国に対し、少人数学級を求める要望等もある。

● 都市部の少人数学級の取組等【P2】

- ✓ 都市部においても、児童費や国の加配を活用し独自の少人数学級を実施している。
- ✓ 大阪府は、R2から、市町村の要望を踏まえ取組を開始。

都道府県	学級	取組内容
東京都	中1	学年2学級以上で、1学級の専任生徒数が35人を超える学年で35人以下学級
埼玉県	中1	35人以下学級(市町村教委からの要望)
香川県	中1	35人以下学級 ※加配定数以外の定数により実施
神奈川県	小3-中3	35人以下学級(研究指定校に限る)
大阪府	小3-中3	35人以下学級(研究指定校に限る)

(出典)文部科学省調べ

● 都市部の少人数学級に関する要望等

- ✓ 都市部からも学級編制の標準の引下げが求められている。

家迎県「令和3年度国の施設・取組に対する意識調査」より
子どもと大人の時間的確保や学習支援が求めらるる児童生徒への支援などのため、35人学級編制の法制度化による少人数学級の推進や、個別的教育課題に対応する教職員配置のさらなる充実を図るとともに、安定的に教職員の採用及び配置が行えるよう、義務標準法の改正を合わせた新たな教職員定数改善計画を早期に策定し、その実現を図ること。

千葉県「令和3年度国の施設・取組に対する意識調査」表1より

少人数学級の拡大や様々な課題へ対応するための教職員配置を計画的かつ安定的に進めること。

愛知県市「令和3年度国の施設・取組に対する意識調査」より

国が示した「学校における指導・運営体制の強化・充実等」を達成に寄与し、教員の待遇改善による教育の質の向上等を図るとともに、学級編制の標準の引下げを含めた少人数による指導の充実を図っていくために、引き続き教職員定数の改善を確実に実施するための取組を確立することを進捗させるものである。

学級規模の学力への影響について①

の 取 扱 方

- 学級規模が学力に与える影響については、外国のみならず日本の大規模データも使った多くの研究が蓄積。
- 最近の新しいデータを使った研究ほど、学級規模の縮小の効果はないか、あっても小さいことを示している研究が多い。
- 他方、社会経済的背景が低い学校の生徒には有意な学級規模効果が確認されたとする研究結果も存在。

文 献 考 察

- 学級規模が学力に与える影響については、社会的経済的背景が低い子供が多い学校や非認知能力の観点からは効果があ
るなど様々な研究結果がある。
- 現場からは、個別最適な学びの実現や感染対策等の観点からも少人数学級を求める声があり、教育再生実行会議におい
ても首長や教育長、関係団体等から効果や必要性について多くの意見が発表されている。

研究事例

- ✓ 学級規模が小さいほど、学習規律、授業態度が良い、授業内容の理解が高まる、学習意欲が高まる。
- ✓ 不利な環境におかれた児童生徒が数多く在籍する学校においては、学級規模が小さいほど正音率が
高くなる傾向。

(出典) 学級規模と学力の関係に関する調査報告書(文部科学省)
学級規模と学力の関係に関する調査報告書(文部科学省)

教育再生実行会議における意見

少人数学級
の効果

大規模学級
のデメリット

- ✓ 少人数学級のメリットとしては、一時的に見る生徒と教員が接する時間を多く確保できることが挙げられ
る。また、小学校では登校負担軽減効果があることから、40人学級と比較して児童一人ひとりの状況を把
握しやすく、成長を求め一しやすいため、関係者の理解が得られやすくなっている。教員の負担軽減にも
つながっている。
- ✓ 児童の集団が小さくなることにより、学校生活において落ち着いた生活を送れている。特に理科で最も
小規模な小学校において、従来存在した単学級編制で6年間通う学年が解消できたことにより、総数が
ある。
- ✓ 一人の教員が受け持つ児童生徒の人数が多いため、負担が大きいため、教員の質に悪影響。児童生徒と向き合う時間が確保できない。
- ✓ 丁寧な成績処理や個別指導、家庭との連絡の時間が確保しにくい。
- ✓ 働き方の改善がすすまない。勤務時間が長くなる。
- ✓ 教員間の影響や業務改善が進まない。
- ✓ 天人数が不登校の「壁」にもなっていることが顕在化。

(出典) 教育再生実行会議第46回(17回)、第47回、第48回教育再生ワーキンググループ第9回教育再生実行会議資料(17)

学級規模の学力への影響について②

教育再生実行会議における意見

少人数学級
の必要性

- ✓ 感染症対応を踏まえ、子供たちを誰一人取り残すことなく、学びを保障するとともに、個別最適な学びを実現することが重要である。身心的過剰の軽減など「新しい生活様式」も過度な学習・生活調整、GIGAスクール構想による「1人1台端末環境の下での1人1人に応じた個別最適な学びや、多様な学習活動」に
対応する環境の整備が急務である。
- ✓ 30人学級を目標としつつ、段階的に減る必要があり、少人数指導にはるメリットにも十分に目処しながら、少人数学級や少人数指導のための重責を市町村向けに十分に確保し、各市町村と市町村教育委員会に一定の負担を付かせ、柔軟な対応の下で対応でも10年以上の時間をかけて実施していくことが効果的である。
- ✓ 通常学級に難を置く特別な支援を要する子が増加している。
- ✓ 生活前学習面の指導の個別化、いじめ防止、虐待防止、不登校へ対応(家庭訪問)、別室登校への個別指導や迅速着速着。

(出典)教育再生実行会議「教育再生実行会議資料、初等中等教育ワーキンググループ第10回協議記録(第15回)」
初等中等教育ワーキンググループ第10回協議記録(第15回)

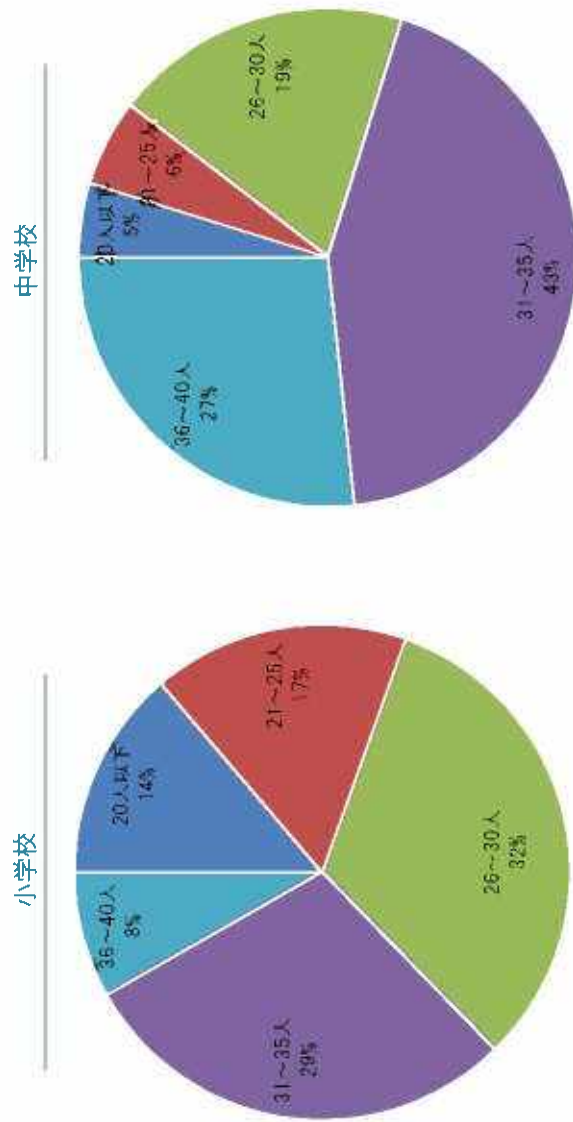
地方三団体提言

- ✓ ハード整備が先行して進む「GIGAスクール構想」において、最適な学びを実現するためには、少人数による
さらめ細やかな指導体制が必要であり、学習用ソフトウェアを含む端末・ネットワーク設備の改善及びそれ
らを有効活用するための「教育人材の配置の充実が必要である。
- ✓ 今後予想される感染症の再拡大防止にあっては、必要に応じて活動制限して、子どもたちの学びを保障する
ためには、少人数学級・生徒間の十分な距離を保つことができるよう教員の確保が是非とも必
要である。

(出典)地方三団体の提言(令和2年7月2日公表)

学級規模別学級数の割合（令和2年度）

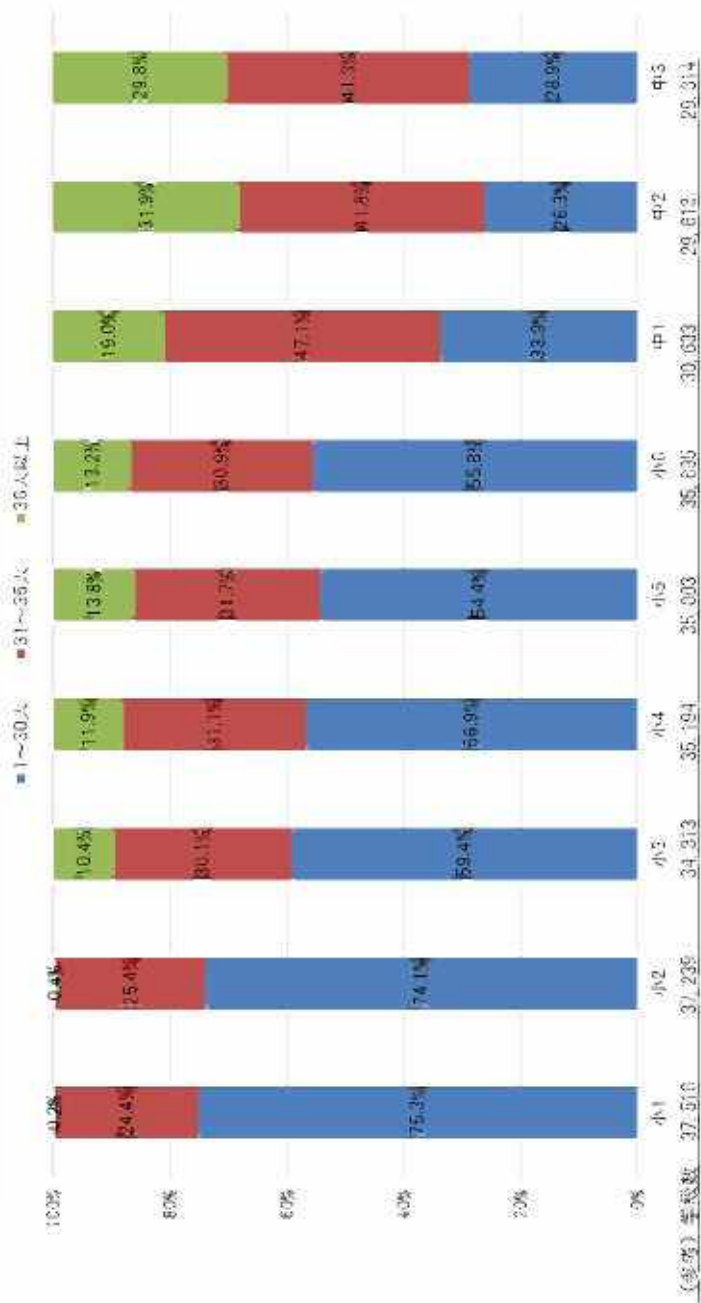
- 平均学級規模は、小学校で1学級当たり27.5人、中学校で31.9人となっている（公立学校、単式学級）。



（出典）学校基本調査（令和2年度）

学年別収容人員別学級数の割合〔単式〕（令和２年度）

- 小学校では約1割が36人以上学級、約4割が31人以上学級である。
- 中学校では約3割が36人以上学級、約7割が31人以上学級である。



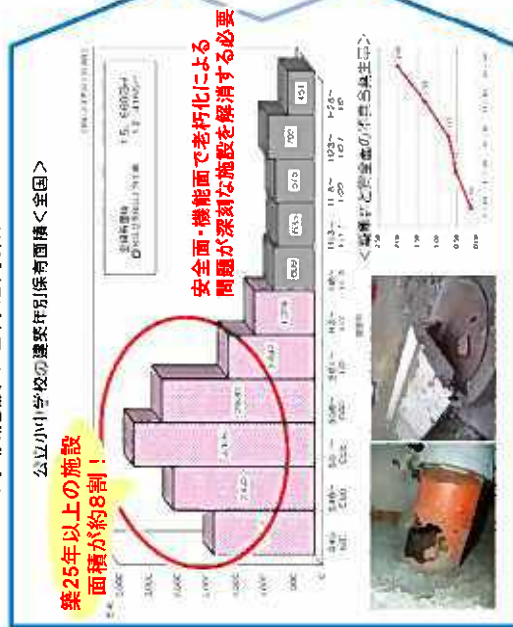
〔92学校基本計画より〕

新時代の学びに対応した学校施設の計画的・効率的な整備

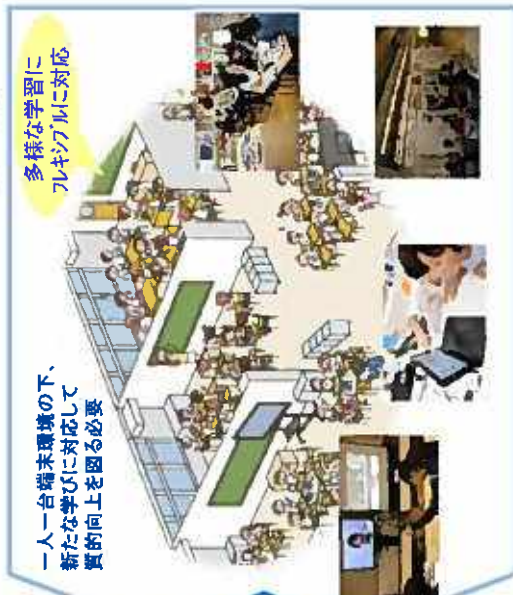
- 少人数学級とICT活用を両輪とした個別最適な学びを実現するための施設環境の整備が必要。
- 昭和40年代後半から50年代に集中的に建設された施設を中心に、安全面・機能面において老朽化による問題が深刻化。
- 学校施設は、災害時には避難所にもなる重要な地域コミュニティの拠点。

一人一台端末のもと、児童生徒一人一人に応じた個別最適な学びと協働的な学びを実現していくため、地域の将来像を見据えつつ、膨大な数の既存学校施設について、安全・安心を確保する老朽化対策と、新しい時代の学びに対応した教育環境の向上を併せて計画的に整備することが必要不可欠。

＜学校施設の老朽化対策＞



＜新時代の学びに対応した質的整備＞



「改築」から「老朽化対策と教育環境の向上を一体的に行う長寿命化改修」にシフトするとともに、施設の複合化・共用化を促進

新しい時代の学びに対応した安全・安心な教育環境を実現しつつ、コストの最適化を実現